

平成 25-28 年度 科学研究費補助金

基盤研究 (C)

課題番号 : 25381064

研究代表者 : 原 義彦

研究課題 : 生涯学習施設の経営診断・

評価技法の標準モデルの開発

—公民館経営診断を中心に—

研究成果報告書

公民館経営診断技法のリンケージ開発に関する研究報告

～公民館の経営改善事例の調査を通じて～

2017年3月

研究代表者 原 義彦

はじめに

本報告書は、平成 25～28 年度科学研究費補助金の助成によって行った「生涯学習施設の経営診断・評価技法の標準モデルの開発 ―公民館経営診断を中心に―」（基盤研究（C）25381064）の研究成果をまとめたものである。本研究では、公民館を中心とした生涯学習施設の経営診断・評価技法の開発を進めるため、公民館を対象とした経営改善についての質問紙調査、公民館を中心とした生涯学習施設の実地調査、さらには国内外の生涯学習施設についての経営診断・評価についての動向調査等を行った。このうち、本報告書では、本研究の中心的な調査となった公民館の経営改善についての調査とその分析の内容をまとめたものである。ここではまとめられなかったそのほかの調査、分析については、稿を改めて発表の機会を持ちたいと考えている。

本報告書では、公民館経営診断において改善・整備方策の提示を行うために不可欠である「診断名」「改善・整備による成果」「改善・整備」のリンケージ（連関）の開発を試みた。リンケージが開発されることで、「診断名」（公民館の問題状況）が明確になった段階で、期待する「改善・整備による成果」を決めると、そのための「改善・整備」の方策を提示できるようになる。医師が、患者の病気に対し、快復の方向を決め、そのための適切な治療方法を示すことと類似している。リンケージの数は多いほど、多様な問題状況に対応できる。本報告書では、公民館の問題状況に対して、適切な改善・整備方策の提示に有効となるリンケージを作成したいと考えている。

ここでの分析に活用した公民館の経営改善に関する調査は、東北地区 6 県のすべての公民館に依頼して行ったものである。すべての公民館を対象とする調査は、その所在確認の段階から困難であったが、各県の教育委員会のご協力が得られ、調査を行うことができた。また、実際の調査においては、対象となった各公民館の方々には、お忙しい中を回答にご協力をいただいた。報告書の中で示した公民館の経営改善の事例は、その一つ一つが貴重な実践例であり、そのままでも他の公民館の経営改善の参考になるものと考えている。本調査の実施にあたって協力をいただいた関係各位には、この場をお借りしてお礼申し上げたい。

公民館経営診断の研究成果としては、依然として課題の多い内容でもある。広く忌憚のないご意見をいただきたいと考えている。

目 次

1	本報告書の目的	1
2	分析の枠組と調査	1
(1)	分析の枠組と方法	1
(2)	調査の概要	2
3	調査の結果	
(1)	回答を得られた公民館と分析対象の概要	3
(2)	公民館の経営改善の事例	3
4	公民館経営診断におけるリンケージの作成	31
(1)	診断名、改善・整備の成果、改善・整備の分類項目の設定	31
(2)	公民館経営診断のためのリンケージ	34
(3)	公民館経営診断のリンケージのモデル作成	39
	資料	43

1 本報告書の目的

本報告書は、公民館の経営改善事例の調査により、公民館経営診断におけるリンケージのモデルを提示するものである。公民館経営診断におけるリンケージとは、公民館経営における問題状況を表す「診断名」と、改善・整備によって期待される問題状況の変容した状態を示す「改善・整備による成果」、及び「改善・整備」の三者に具体的に設定される項目どうしの有効な結びつきのことである。このようなリンケージのモデルを作成することにより、改善・整備方策の提示に重きを置く公民館経営診断が可能となる。

2 分析の枠組と調査

(1) 分析の枠組と方法

公民館経営診断では、まず「公民館経営診断による診断」によって経営上の問題点を明らかにする。次に、改善・整備を行ったあとに期待する経営状態を想定することになる。これが「改善・整備による成果」である。そして、期待される成果を導くための有効な手段や方法が「公民館経営の改善・整備」である。経営診断において、これらの三者には、具体的な分類項目が必要となる。この三者間の分類項目の有効な関係がリンケージであり、リンケージが明らかになっていれば、経営上の問題点が明らかになった時点で、改善後の期待される成果とそのための手段や方法を決定することが可能となる。経営診断技法を開発するには、各分類項目の定義の設定、さらにそれぞれの分類項目を特定する、あるいは判定するための診断指標の開発等が必要であるが、まずここでは、この枠組に基づいて公民館の経営改善の事例を収集し、リンケージの開発に向けた検討を行った。

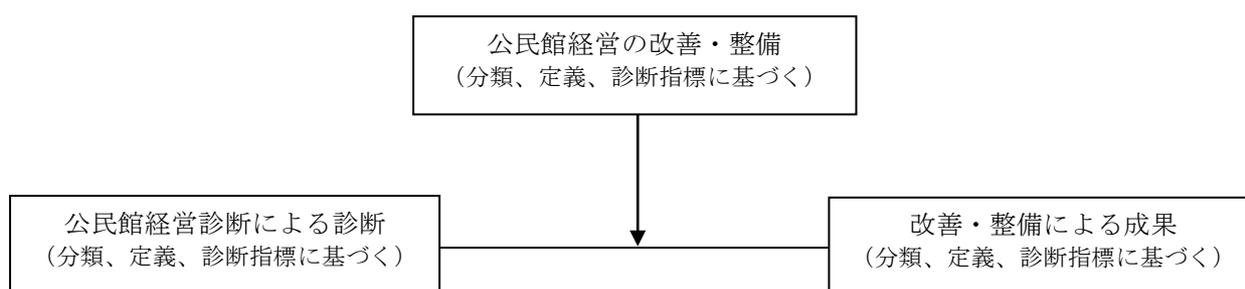


図1 公民館経営診断における診断、改善・整備による成果、改善・整備の関係

(2) 調査の概要

公民館の経営改善の事例を収集するため、東北6県のすべての公民館を対象に、公民館における整備、充実、改善にかかわる事例についての調査を行った(調査票は巻末資料を参照)。調査の概要は下の通りである。

調査対象：東北各県の教育委員会が把握する公立公民館全館(悉皆調査)

調査館数：1204

調査時期：2015年3月16日～5月13日

配付方法：メール便による配付、およびウェブからのダウンロードを通じた配付

回収方法：電子メール、またはファックスによる返送

回収状況：回収数199(有効回収数198)、回収率16.5%(有効回収数16.4%)

主な調査内容：経営上の課題の有無、課題とその解決の手だて及び成果、利用状況、事業数、予算、公民館の概要等

3 調査の結果

(1) 回答を得られた公民館と分析対象の概要

調査によって回答の得られた公民館の内訳は、設置者別では、市立67.7%(134館)、町立28.3%(56館)、村立4.0%(8館)であった。また、館の種類では、中央館19.2%(38館)、中央館(地区館機能併有)16.7%(33館)、地区館64.1%(127館)であった。

本調査では、各公民館における経営上の課題、その解決に向けた手だて、及びそれによってみられる成果や変化の事例の組み合わせについて、最大3事例までの回答を求めた。この回答のうち、解決の手だてによって何らかの変化や成果の事例の記述があったのは、有効回収198館のうち、108館であった。また、このうち、3事例の回答のあったのは15館、2事例の回答のあったのは22館、1事例のみの回答であったのは71館であった。これらを合計すると、160事例の経営改善の事例を収集できた。

(2) 公民館の経営改善の事例

表1に、この調査で得られた経営改善の160の事例をすべて記載した(地域名、固有名詞等の一部は削除している)。この表の見方は、例えば、事例No.1でいうと、公民館運営上の課題である「新規利用者の不足(公民館利用者の固定化)」について、館報への講座情報の掲載、利用者による友人への声かけ、新しい講座の実践、という改善の手立ての結果、「少しずつ新規利用者増えてきている」という成果が見られているということである。課題全般をみると、公民館利用や講座参加者の減少、固定化、高齢化など、利用者や参加者にかかわる課題を挙げている事例の占める割合が多い。これ以外では、広報、学級講座等の学習支援事業、会議等の運営方法、公民館の役割の普及啓発などにかかわる多岐にわたる課題、および、そ

の改善の手立てと成果の事例が挙げられた。また、「改善の手立て」には、それぞれの課題に1～3つの内容が挙げられている。2つ以上の内容がある事例では、課題の改善に対して有効と思われる順で回答していただいている。

表1 調査で得られた公民館の経営改善の事例

事例 No.	課題	改善による成果	改善の手立て
1	新規利用者の不足（公民館利用者の固定化）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少しずつ新規利用者が増えてきているが、大きな成果はあがっていない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎月1回地区の全戸へ配布している館報へ講座情報を掲載し、PRを図る。 2. 公民館利用者へ負担にならない程度で隣近所、お友達に声掛けをしていただく。 3. 新しい講座の実践。
2	学級や講座の参加者の固定化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規参加者の微増。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者募集の案内を1～1.5ヶ月前に出すことにより、勤めている方も少しでも参加しやすくなる。
3	学級・講座において、新規受講者が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規の受講者が増加した。 ・ 他の学級の受講者の申し込みがあった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学級・講座の内容を教養・趣味からスポーツまで多岐にわたるコンテンツを提供した。 2. 移動研修を昼の部と夜の部合同で行い、学級間の交流を積極的に図った。 3. 講座の案内について、写真や文字の大きさを工夫し、より分かりやすいチラシの作成に努めた。
4	公民館利用者や事業参加者が固定されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域からの参加者が増えて交流が図られた。 ・ 1回参加した人が他の人を誘い、参加者も増えてきた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全地域内に配布する広報誌（毎月発行）で事業を案内し募集した。4年前から広報市による募集を始めた。 2. 来館者への事業アピールや声かけを行った。 3. 参加者の希望する事業を計画した。

5	参加者の多くは老人クラブと婦人会であり、高年齢化している。若手の参加があれば、参加者の確保もできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に関係なく参加者が多くなってきた。 ・地域コミュニティとして特色を生かすことができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. JA青年部や地元若手後継者の団体、PTAとの連絡を取り合い、各事業への参加を促進した。 2. 親子で参加できる夏祭りや創作体験をおこなった。 3. 農業後継者の交流会を開催し、有名講師を呼んでの講演と後継者の意見発表会を開催した。
6	公民館の利用者は多いが、ほとんど高齢者の方々である	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者に若干の変化が見られ、子育て世代の参加があった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開催時間を変更した。 2. 講座の内容も、若者が気になる健康的な物も取り入れてみた。(バランスボールなど) 3. 乳幼児講座を取り入れた
7	公民館の利用者が高齢化してきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・中高年世代の参加がみられ、公民館に足を運ぶ人が増えてきた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中高年世代の講座を新設した。 2. 講座のチラシを作成しPRした。
8	講座は高齢者の受講が多い。それに比較すると、子どもから保護者世代の受講が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとその保護者の受講が増えた。 ・働いている世代の受講が増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭教育支援や青少年教育の講座数を増やし、講座全体の内容も見直す。 2. 講座の平日実施を減らし、週末実施を増やす。
9	事業・学級参加者、個人利用者の高齢化、固定化。公民館利用者がほぼ同じで、高齢化が進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級参加者の意見を取り入れることで、学級生の意欲向上が図られたと共に、内容の充実が図られ、大変な人気となった。(女性、高齢者学級) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学級参加者の意見を可能な限り取り入れるようにした。 2. 高齢者と女性学級のジョイント事業を実施し、相互の交流を図った。 3. 女性学級においては、7年で卒業する仕組みの導入を検討している。
10	利用者の多くが高齢化し、若年層の利用が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに不安を抱いている人や初めての妊娠で悩みを相談する人がいない方たちの不安を解消する場となった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育として、親子リトミック講座、マタニティリトミック講座を開催した。 2. 市ホームページの他、市内事業所を通したチラシ配付や市内金融機関へチラシを設置した。
11	公民館利用者の高齢化、空洞化	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代～40代、50代の利用者がふえつつある 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若い世代向けの講座の充実 2. 学校PTAと連携し、子どもの頃から公民館に親しんでもらう
12	公民館利用団体(定期使用)が高齢化により減少傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・運動、体操等による健康づくり意識の向上 ・自立的活動(組織化)に発展 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各団体の事務事業に対するテコ入れ 2. 中高年向け教室等の実施

13	高齢者大学において、受講者が固定化し、高齢化してきた。また、参加数が減ってきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・若手の参加が増えてきている。平均年齢が若くなり、明るい雰囲気講座となってきた。 ・欠席しても内容が新聞効果でわかる為、ためらわずに次の講座に参加できるようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加している受講生に呼びかけをしてもらい新規入会者を増やした。 2. 出席しない受講生にも毎月の講座の様子を高齢者大学新聞を作成し、お知らせすることで参加意欲向上を図った。 3. 毎月の講座を参加率の高い内容に変え、楽しめる講座にした。
14	公民館利用者が高齢化、及び固定化してきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各講座への新規参加者が徐々に増えてきている。また、若い人が作った団体の利用も増えつつある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講座の見直しと拡充 2. 各イベントの広報の強化 3. 若い人中心の活動への支援
15	公民館の利用者が固定された状態になってきており、それも高齢者が多く、しかも、利用者は減少傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級・講座の受講者に変化が見られ、講演や現地見学等には、参加者が増加する傾向にあるが、実習等は横バイ状態にあり、なお改善が必要 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学級・講座の内容を主体に地域に関わる実践的な内容にした。 2. 学級・講座の方法に室内の講演等の他に実習や現地見学などを盛込んだ。
16	公民館の利用者は高齢者が大部分を占め、女性が圧倒的に多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・フラダンスに参加する年齢層が若返り、30代～40代の人ほとんどを占めている。 	最初講座として実施し、人数が増えて自主クラブへと移行した。(例フラダンスクラブ)
17	公民館の利用者は地域住民がほとんどであり、高齢者の参加が多く。特に女性が9割を占めている状態が続いている	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業に男性が参加した時に、本人に感想を訊いたり、今後どんな内容の講座を希望しているか。友人、隣近所の男性を誘っていただくことをお願いする。上記の取り組みによって男性の参加が多くみられるようになった 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 団塊世代の地域デビュー支援講座を参加費無料で歴史・体操・タブレット・認知症の内容を実施した結果、好評を得た
18	講座の参加者は、高齢者及び特定の方々が多い傾向が続いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区は人口、若年層の減少傾向にあり、高齢化率が高い地区である。また、地区行事、老人クラブ等への新規参加者があまり見られないなど、社会参加をしない方々が増える傾向にある。このようなことから高齢者及び特定の参加者が多い状況は続いているが、少ないながらも新しい人の参加も見られるようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者が特定化しないよう、また、各世代間で興味を持てるように学級・講座内容の見直しを図っている。 2. 小・中学生の父兄等公民館利用者に学級・講座参加の声かけをしている。

19	利用者が高齢者層や主婦層にかたより、同時に、頻繁に利用される個人が特定化している。	<ul style="list-style-type: none"> ・主催事業に地域の小中学生の参加を積極的に受け入れた。小学生の親を対象にした家庭学級の内容充実。 ・地域の小中学生やその家族、知人が公民館を訪れるようになった。 ・家庭学級の内容充実を口コミで知った親子が新たに学級生に加わった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校就学児を持つ親の家庭学級の新たな展開 2. 公民館まつりに地域の小学生・中学生を出演 3. 小学校の歴史授業の講師を公民館利用者が務めた
20	当公民館が市街地より約 20 km離れた中山間地域に所在しており、市民講座の募集をしても参加者がほとんど地区内の女性となってしまう	<ul style="list-style-type: none"> ・募集直後より他地区住民からの問い合わせが増え、申込日初日には他地区住民が来館し、行列ができる賑わいとなった また、「初めて公民館を利用する」といった、新たな利用者層を取り込むことができた 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市内の他公民館で好評の講座を企画し、他地区住民の取り込みを図った。 2. 「男性限定の料理教室」といった、受講対象を絞った講座を企画した
21	公民館施設の活用や、事業への参加において、特定の団体や、個人の利用が大半を占めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の公民館事業の充実だけでなく、新規講座の開講により新規の利用者の開拓をおこなうことができた。 ・口コミでのPRは知人からの誘いであるとともに、参加しての経験から、事業の詳しい内容についてもその場で答えられるなど利点が多く、参加者が増加した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館利用団体（地域住民）との情報共有の場を増やすことで、より住民のニーズを踏まえた公民館事業の企画・運営を行った。（新規事業を含む） 2. 既存の参加者（利用者）の協力により、事業PRや参加の勧誘などを口コミで行った。 3. 他地区在住のためなかなか亘理町中央公民館に足を運べない利用者のために、施設使用などの申請書をHP上からダウンロードできるようにした。
22	講座への参加者が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・地区民のせいにしていたが、企画を変えたら参加者が増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住民は何を望んでいるかを考えて企画したら参加者が増えた。 例：トレッキング、ウォーキング、料理、文化財（奥の細道）
23	地区人口の減少、そして高齢化により講座の集客が難しくなりつつある。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館だより、ポスターは地域の方はあまり見ていないことが分かった。地道にこちらから声掛けをし、講座の周知をすることにより、参加者は少しずつ増えてきた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館だよりでのお知らせ 2. ポスターの掲示 3. 声掛け

24	公民館の利用者が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 講座を開設し、受講する住民の中には、公民館を利用したことがなかった人の利用が見られるようになった。 	1. 地区広報誌にて、講師を募集した。
25	参加者や利用者の減少	<ul style="list-style-type: none"> 図書室の利用は格段に増加。その他、事業参加者は減少の一途か（担当が兼務であり、専門的に対応できない） 	1. 図書室の利用推進（司書の配置等）
26	利用人数の減少	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体と共催して事業実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人クラブと事業を共催で実施する。 2. 婦人会と事業を共催で実施する。
27	歴史講座の参加者が年々減少し、参加者が固定化している。	<ul style="list-style-type: none"> これまであまり参加していなかった講座生が参加するようになった。お寺の住職からの講話では、講座生以外の参加が多く、新たな講座生の確保につながった。矢島地域以外からも新規講座生の加入が増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講座生に今後も講座に継続して加入するか年度初めに確認を行った。 2. 地域の方が興味をもってくれそうな身近な内容（お寺の住職からの講話等）の講座を開催した。 3. 地域の文化祭や広報で歴史講座を含めた公民館講座の紹介PRを行った。
28	講座の受講生が減少	<ul style="list-style-type: none"> 地区内外から講座に参加してもらうことが出来た。公民館広報は、町内会員にしか回覧していないため地区の人でも地方紙を見て参加してくれる人が増えた。 	1. 地区を回覧している公民館広報の他に、地方紙にも講座の情報を掲載してもらった。
29	<ul style="list-style-type: none"> ・センターに来館しにくい地域の高齢者の方への講座の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まり易い会場での開催と、町内会や、老人クラブの会長さんからの声がけにより市民センターの講座を受けたことない方の参加が得られた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の高齢者が集まり易い会場で出前講座を行った。 2. 町内会や、老人クラブの会長さん方に参加の取りまとめをお願いした。
30	新規受講者の開拓 子育て世代への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の母親世代の講座参加 託児は現職員の在籍前からの実施。子育て世代には有効と思われる。 	1. NPO 協力により託児の実施

31	子育て世代の公民館利用者・事業参加者が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと共に事業に参加してもらおう事で、公民館という場所に興味を持ってもらえたのではないかと思う。 受講者の年齢層の幅が広がり、中年層や子育て世代の参加者が増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館事業等の告知チラシに目を通してもらえるよう、学校配布文書と共にチラシを配布してもらおうよう学校に協力要請。 2. 小学生や中・高生、親子をターゲットにした事業を企画。 3. 学校PTAに、事業開催時のボランティア協力を要請。
32	小学生を対象とした事業に参加者が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の参加が年々増加し、リピーターとなる参加者が多くなった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 土・日曜日の事業実施については、習い事やスポーツ少年団活動、また家族で外出することなどが多いことから、夏休みの平日に集中して夏休み教室などを行った。 2. 夏休み学習会など単調だった講座内容を毎回異なった体験プログラムに取り組むことに変更した。（平成24年度から）
33	子どもの事業では、児童数の減少もあり、年々参加者が少なくなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 中学校区内には3つの小学校があり、小学生の交流を深めることでスムーズに中学校生活がスタートできる。 他の公民館を訪れることにより、その地域内を知ることができる（年に1～2回の交流は2年程になる。） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域内にある2つの地区公民館と事業を共催で行い、子ども同士の交流を図る。 2. 学校の放課後児童クラブに入っている児童に指導員ともに参加してもらう。
34	子供たちの講座参加率が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 公民館講座ということで、参観日とは違った学習が親子でできた。 子ども会に参加することで、情報の収集や公民館からの発信ができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校で講座を行った。 2. 子供会の事業に公民館側が参加した。
35	児童・生徒の段階から公民館活動等へ参加する機会を増やし、継続して社会参加できる環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭に参加することを通して、地域の人々とふれあい社会参加のための基盤が育まれた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放課後子ども教室の活動で、文化祭への出店・参加 2. ジュニアカルチャー教室での講座参加
36	家庭教育学級の講座に参加する子どもたちが少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 対象年齢に応じて参加してくれる人数が増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近くの児童館や保育園にポスター等を作成してその都度参加依頼をするようにした。

37	高齢化が進み、若い住民の利用者が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が参加できるような講座の開設によって、いままで公民館に足を運ばない住民や他地域からの参加者が見られた。 	<ol style="list-style-type: none"> 興味を引くだろうと思われる、専門的な作業をする講座を開講した。 講座のお知らせを、ポスター・チラシの作成の他、地方新聞や放送局にて宣伝した。
38	若い人たちの利用が少ない。ほとんどが各地区や農業、健康関係の集会である。	<ul style="list-style-type: none"> 他地域に比べ、結構気軽に集会場として利用されている。 	<ol style="list-style-type: none"> これからは若い人たち、子ども会などにも、もっと使ってもらえるよう工夫したい。
39	講座の参加者が固定されつつある。(若年層の参加者が少ない)	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年代の参加者があった。 大学生が講師を務めることにより、親子で参加した受講者から好評だった。 興味のある分野については、年代に関係なく受講者が集まった。 	<ol style="list-style-type: none"> 土・日に開催する。 県立大学と連携を図り、親子を対象とした講座の開催 社会的課題をテーマにした講座の開催と座学ではなく、身体を動かす(軽運動)講座も開催した。
40	中高年男性の公民館活動への参加が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の男性のつながりが見られるようになってきた。 さらに充実させて、地域活動への参加につなげていきたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 男性限定の講座を設定し、参加しやすい内容や雰囲気作りに努めた。
41	青年層の生涯学習、公民館利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> 前年度参加がなかった30代、40代の参加者がいた。 	<ol style="list-style-type: none"> 講座内容を変更。マクロビなど青年層が関心のある料理教室を実施。 講座の日時を土曜日の午前に変更し、青年層が参加しやすくなるよう努めた。
42	成人を対象とした講座を平日昼間に開催することにより、昼間に働いている市民が講座に参加しづらい。	<ul style="list-style-type: none"> 学生や昼間働いている市民の参加が増加した。 	<ol style="list-style-type: none"> 平日昼間開催の一部を、平日夜間と日曜日昼間に開催した。
43	講座に働いている人が参加できない。	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代や中高年世代の参加が増えた。 個別チラシも自分の為、またお誘いにと使われていった 連続しての講座には、参加した人から誘われてしだいに人数が増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 夜の時間帯に講座を組んだ。 働く女性にスポットをあてた講座を企画した。 講座のお知らせは、全体をまとめたチラシの他に、個別のチラシを作成し、来館者にPRした。
44	研修事業への参加者不足。参加者が役員に限られている。	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が年代を問わず、大幅に増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 研修名目を変更した。 必要経費(参加費)を少なくした。

			3. 参加者の年代を問わず、募集した。
45	高齢者を対象とした講座が、趣味と健康づくりだけになっていて、参加者が減っていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の講座は、健康と趣味に特化してしまいがちだが、まちづくりの経験者としてリーダーとしてワークショップと講座を2年継続。自分たちでできるまちづくりビジョンも考察するようになり、世代間交流も、単に「孫の顔を見たい」的発想から、地域の伝統文化を後世に伝えていくという立ち位置に変わり、参加者も増加している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の経験と行動力をまちづくりに反映するワークショップを実施。 2. 健康づくりも、自分の健康だけでなく、家族の介護をする立場になったときの対処などを立ち位置を変え実施。 3. 温泉旅行的な移動研修をやめ、まちづくりの講座に参加。
46	中高年男性の公民館活動への参加が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の男性のつながりが見られるようになってきた。さらに充実させて、地域活動への参加につなげていきたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男性限定の講座を設定し、参加しやすい内容や雰囲気作りに努めた。
47	男性の講座参加率がよくない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に講座に参加してもらえるようになり、次回参加への意欲も湧いてきている様子がみられた。 	「男の料理教室」という講座を作り、気兼ねなく参加できるように、公民館だよりで募集を募った。
48	男性の参加率が低い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味、関心をもって積極的に取り組むようになった。 ・ 世代間交流にも取り組めるようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各町内会の役員やクラブ員への勧誘 2. 各町内会への事業開設のチラシ配付 3. 団塊世代に合う事業内容の設定
49	公民館利用団体交流会（文化発表会）への観覧者が減少している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観覧者の増加が見られるとともに、発表の内容がバラエティに富み、活性化された。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 町会長や高齢者教室参加者に個別に案内を送付。 2. ゲスト出演として、地域の小学校太鼓クラブやダンスサークルに出演を要請。
50	当館においては、以前から高齢者層の参加は盛んであったが、若年女性や児童の参加が少ない傾向にあった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年女性・児童、親子で参加できる講座（ネイルアート、スイーツデコ、調理実習、イチゴやブルーベリー農園の見学・摘み取り体験 など）の充実を図り、若年女性・児童の公民館活動への理解が進み、公民館活動が活性化した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若年女性・児童・親子で参加できる講座を企画・立案した。

51	健康維持や、体力維持等に関するもので、体操や運動をするクラブは人数が多いが、創作活動や習い事に関するクラブの人数が減少の傾向にある。クラブ員の高齢化による影響が出ているのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めは、各クラブへの問合せ等がみられ、見学者もあった。その結果人数の増加したところもあるが、全体的にはあまり大きな変化は見られなかった。今後も啓蒙を図りながら経過観察が必要である。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館だよりに、クラブ員募集の案内等を掲載し啓蒙をはかった。特に、年度初めの便りは、全戸配布し自主クラブの詳細を一覧にして掲載した。
52	公民館図書室の図書利用が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室内を改修したり、図書室を整理整頓し、室内環境を整えた。 ・公民館だよりに新刊の案内を掲載したことで、予約する利用者が出てくる等、少しずつ利用者が増えている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書室の改修 2. 図書ボランティア（図書の整理、修繕等）を養成し、図書室の環境を整備 3. 公民館だよりに、新刊図書を掲載
53	対象者（児童）の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区との交流が図られた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他地区公民館との合同事業
54	対象者（児童）の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区との交流が図られた。 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 他地区公民館との合同事業
55	教室生の高齢化に伴い、新規生徒さんの募集	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館だよりに読んで、興味を持った人が見学に来てくれるようになった。 	<p>毎月1回配る公民館だよりに教室のPRをのせた。</p>
56	自主クラブ活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・自主クラブの発表の場があることで、日々の活動の目標の励みとなっている。 ・市の文化ホールでの”歌の発表会”が第8回となった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自主クラブの活動充実のために、公民館まつりに展示発表の場を設けている。 2. 各地区公民館カラオケ自主クラブの”歌の発表会”を館長会との共催で実施している。
57	事業周知にはチラシの配布や音声告知を主として行っているが、地域住民のみにとどまっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民だけでなく様々な年代層の参加があった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習推進員による周知 2. 申込者・参加者から SNS（Facebook）を活用した PR（地域外への発信）
58	開設した講座の参加申込の反応が弱いときがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・募集定員に満たなくても、柏崎地区ばかりではなく、広く市内全域からの参加がみられた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館だよりのほか、地元紙の情報欄に投稿して取り上げてもらう。 2. 地域の FM 放送局で、年に 2～3 回講座について紹介する機会を利用する。 3. 知り合いに電話等で参加を呼びかける。

59	地域住民の主催事業への積極的な参加をはかること	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつの事業に「大学生」も参加することによって、活気あるものとなるばかりではなく、地域の方々とのコミュニケーションがより活発なものになっている。新規の方や男性の受講者が増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 必修科目と選択科目からなる「橘ときめき大学」を開設し、選択科目は他の主催事業や共催事業を年間10単位以上取得するというシステムとし、主体的に学んでもらう
60	管内の住民に広く利用してもらうための活動	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の行事、事業を多くした。 ・少しずつ増加している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館協力員の育成 2. サークル、教室の参加者の呼びかけ 3. 現地研修の実施
61	小学生向け講座の通知を学校経由で配布したが、学校によって配布時期が異なったため、早く配布した学校の児童の申込みで定員に達してしまい、申込みの間に合わなかった児童の保護者から「通知をもらってからすぐ申込みしたのに不公平だ」との苦情があった。	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の児童からほぼ隔たりなく申込みを受け付けることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 申込み期間を設けた。 2. 申込み開始日まで通知を配布するよう学校へお願いした。
62	地区別で、使用者に偏りがある。公民館がある地区の使用が多く、その他の地区からの来館者・使用者が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館で行っている講座が幅広い世代を対象としているため、世代による来館者の偏りはほとんどない。 サークル・同好会活動により、来館者数が安定している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サークル・同好会等の会員募集を他地区へも積極的に行ってもらおう。 2. 講座の曜日・時間帯を勤務している村民も参加できる日時に行う。 3. 地区全体で参加するような講演会、講座等を設ける。
63	公民館事業で体育関係の事業(球技大会など)は多いが、生涯学習関係の事業が少ないと地区住民から指摘された。	<ul style="list-style-type: none"> ・偶然、地区内から講師を見つけることができ、参加者も気負うことなく楽しく講座へ参加できたように思われる。 講座終了後のアンケートについても満足したとの回答が多かった。 ・これをきっかけに新たに公民館で活動をはじめた団体が出た。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習関係の新規講座を開設した。 2. 参加者が気軽に参加できるよう、地域住民の方に講師を依頼。

64	子育て世代が参加できる講座が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 親子一緒なので、気軽に参加できるという声がある。 青年学級卒業生である母親の参加が見られるようになってきた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母親が乳幼児と一緒に参加できる講座を設定した。 2. 学校を通してチラシを配布したり、行政主催の講座時にチラシを配布したりして、PRに努めた。
65	子育てママが参加できる講座がない（新興住宅地が広がり、若い世代が多く住んでいる）	<ul style="list-style-type: none"> 定員を超える参加があり、たくさんのママ友ができたこと好評であった。 公民館で別に実施している親子で参加する子育てサロンへ友だちを誘い、参加してくる等、相乗効果がみられた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子連れで参加できるように、託児付き女性講座とした。 2. 子育て情報や、悩みが気軽に話せるスペースと時間を設けた。
66	若年層や高齢者層以外の青年層への学習機会の提供が弱い。	<ul style="list-style-type: none"> 講座テーマによって参加者数のバラつきはあるものの、好評を得ることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 20～40代が興味のある講座を開催した。 2. 女性の場合、育児中であることが多いため、講座実施日に保育サポートを併せて実施した。
67	青少年を対象にした事業が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 小、中学生を対象にした事業を行うことができ、地域にも反映できる見通しが出た。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校や児童館とともに行う。
68	公民館講座の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> 町のイベントと連動した事により、参加者の目的意識が向上した。学校と協力することで親子の参加が増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他課と連携して講座を組み立てた。 2. 町の政策やイベントと連動して講座を開催した。 3. 町内小中学校に協力を呼び掛け参加者を募った
69	魅力的な講座の企画立案が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が興味のある講座を実施できたので、好評であった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種協議会でアイデアを募集した。 2. 講座参加者からアイデアを募集した。 3. 座学より体験型や現地見学型を重視した。
70	魅力的な学習講座の企画立案	<ul style="list-style-type: none"> パソコン講座で技術の向上を図り、“町内会だより”発行に生かし、市町内会だよりコンクールで最優秀賞、優秀賞を受賞した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館だよりを2ヶ月ごとに発行し、講座や自主クラブのよていなどのPRに努めている。
71	公民館講座の固定化、マンネリ化	<ul style="list-style-type: none"> 年に一つでもいいから、全く新しい講座を組み入れることで新しい層の受講生を獲得できた。（平成26年度は「門松作り」） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講師候補をなるべく多く発掘するため、常にアンテナを張っておく 2. 職員が常に新しいことに挑戦

			し、他者の意見もどんどん取り入れる。
72	事業（講座）内容のマンネリ化	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査をもとに新規講座を実施することでマンネリ化しないように努めている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 随時、利用者アンケートをとり、ニーズ把握に努める。 2. 事業参加者による実行委員会において意見交換を行っている。
73	現在行っている公民館事業は毎年同じような内容であり、マンネリ化してきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少しではあるが、工夫をしたことで参加者が増えた行事があった。 ・ 新しく試みたことも周知不足でうまく行かなかった。 ・ 次に活かせるような改善策が少しずつ出始めてきた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 同じような内容でも、少し違った工夫をした。（参加制限の緩和やルールの改正など） 2. 会議の場で、改善した方が良い点など積極的に話合った。
74	事業や行事のマンネリ化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい講座に対する市民の反響が大きかった。（定員をオーバーする申し込み。次回の開催を望む声の反響。） ・ 講師を身近な仲間が務めることにより、社会教育の基本である、学んだ知識を地域に還元すると言う意識が再認識された。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 従来、医師や学識経験者など専門家による、健康講座や歴史講座などを主体に開催してきたが、公民館で学ぶ市民が自ら講師を務める市民講座を開催した。 2. スマホ講座や登山講座など、時代に即した講座を市民講座として開催した。 3. 市民講座の講師を、日頃、公民館で活動している市民が勤めた。
75	室内運動のマンネリ化からの脱却	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卓球は秋から冬にかけて室内運動として最適である。参加者が意欲的になり、回数を増やして欲しいという要望が出て、1年毎に回数を増やしてきている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実施回数を年毎に増やし、指導者も増やし、受講者の要望に応える体制をとった。
76	事業を企画立案する段階で、職員の経験不足から各種情報・資料の収集がうまくできない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の事業に対する姿勢が積極的で前向きになってきた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 状況の許す限り各種研修会や講習会に参加できるようにしている。 2. 市の社会教育機関に情報の提供を依頼している。 3. 毎年同じように実施している事業の見直しや方法の吟味。
77	高齢者の健康づくりや生きがいつくりにつながる事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者学級に参加することで、運動不足を軽減している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者学級を展開し、その中で軽運動や講演を行った。 2. 未就学児、児童とふれあう機会

			の提供。
78	興味のある公民館講座の創設により、老人の生きがい対策に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 公民館講座に参加したら毎日の生活に張り合いが出てきたとの感想が増えてきた(楽しみだ)。 H26の公民館講座に参加して、初めて、市町村合併の意義を感じるようになってきた。 	1. 興味のある公民館講座・講師の招へい
79	東日本大震災津波・放射能問題等により人口減少が進み、それに伴う講師の町外転出より講師確保が困難。	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画による定期教室開催ではなく、単発の教室を複数開催。 	1. 生花店や菓子店等の町内外自営業者の協力を得るようにした。
80	製作を考案する際、女の子向けになりがちになる。	<ul style="list-style-type: none"> バランスよく男女の参加をすすめられた。 	1. 流行を取り入れた製作にすることにした。
81	公民館講座が、受講者主体ではなく、「行政のサービスマニューを選ぶ」感覚にあり、自らの学びの意識が強い。	<ul style="list-style-type: none"> 講座運営の中で、様々な意見が出るようになってきた。反面、発言や意見をうまく表現できない方(特に高齢の高齢者)の中には、受講回数が減る方もあった様子。 	<ol style="list-style-type: none"> 各講座の開始時に、受講者同士の意見交換の時間を設け、講座への積極的な関与を勧める機会とした。 広報紙面へ、講座募集案内に加え、実施結果報告、自主的な公民館活用事例等を掲載し、公民館の紹介を行った。”
82	地域住民企画事業を公民館事業への採用	<ul style="list-style-type: none"> 地域の老人による小学生への昔遊びの伝承事業、地域に里山への登山事業の実施。放課後子育て支援事業への協力者、指導者、監視員等への参加者育成が図りやすくなった。 	1. 主催事業に地域の団体育成を目指す主催事業枠を設定し、地域住民がやりたい事業(ボランティア、町内会・地域の有志による)事業等に共催・参加し積極的に団体を育成していく。
83	公民館事業への青年層の参加が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 青年層の参加が若干増えた。2回目(土曜日)の開催に友達と2人で参加していた。そのうち1人はその後の2回の教室にも参加してくれた。 	1. 青年層が参加しそうな教室については、土曜日にも日にちを設定してみた(例:平日、土、平日、土の4回コースで開催)
84	各種講座を開催し、生涯学習の場も提供しているが、単発で終了し、次の活動につながるものが少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 受講者有志によるサークル化がされ、独自にあんない活動を開始しているほか、今後の公民館事業の講師としての活動が期待される。 	1. 指導者(学習案内人)の養成講座を実施した。

85	開催した事業を次の事業に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の声をもとに事業を開催することで、参加率が高まり、新しい利用者が増加。 ・公民館まつりで、事業で学んだ成果を発表することで意欲向上につながり、地域住民も鑑賞の喜びを味わえた。 ・次の事業への期待を持ち、意欲的に企画・運営に協力。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な作品等を展示し、住民が興味・関心を示すものをリサーチする。 2. 住民の声をもとに事業を企画。 3. 事業での学びを地域住民へ披露。
86	・人的、財政的な事情により単独事業(新規)の実施は困難	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの社会性の向上 ・地域住民と子どもの交流促進(異学年交流含む) ・公民館利用者数の増加 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放課後子ども教室など補助事業の活用 2. 地域住民のサポーター募集
87	童を対象とした「放課後教室」を、小学校に近い図書館で行っていたが、利用者等から「うるさい」と苦情が来て。教室自体の存続が問題となった。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から約2キロの道のりがあり、1本の国道を横断するため、徒歩移動が困難と思われたが、地域の皆さんの支援と教室指導者の随行ということで改善。安全に教室に通うことができた。 また、以前はお預かりが主体となっていたが、公民館で行うことで、世代間交流や工作体験などができるようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館から公民館への会場変更。 2. 小学校から公民館までの経路に見守り隊などを配置。 3. 事業自体を体験型に変更。
88	職員の減により、公民館講座や各種教室の運営が困難になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士の交流が図られるとともに、自主性や責任感が生まれ、意欲的・積極的に参加する姿が多く見られた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者へ協力を依頼し、職員不在の場合でも会場準備・講師受入等を行い、自主的に開催する手法をとった。
89	子ども対象の事業に参加者が多くなることにより職員だけでは目が届かない状態が生ずる。	<ul style="list-style-type: none"> ・過半数の事業は保護者や学生ボランティアの参加により職員の負担軽減が図られるようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加案内チラシに保護者の参加も呼び掛けた。 2. 大学のボランティアセンターに団体登録し各事業の情報提供により学生ボランティアを募ってもらった。
90	公民館まつり、文化祭及び公民館の除雪や草刈り等の協力者が年間を通して必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の準備や後片付けがスムーズになった。 ・公民館の環境整備が行き届いてきれいになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館活動をサポートしてくれる住民を募り、公民館サポート隊(応援団)を結成した。平成26年6月27日結成、隊員15名
91	職員数の不足により事業の企画、運営が難しい。さらに事業運営の	<ul style="list-style-type: none"> ・県の機関により事業の運営を担ってもらった。 ・生涯学習奨励員のメンバーが運 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県の連携事業を活用し、事業運営を県の支援で行った。 2. 公民館運営ボランティアの養成

	ためのスタッフの育成が課題。	営ボランティアとして活動して、事業に参加してもらった	を図った。 3. 施設利用団体に事業支援を依頼。
92	公民館と協会の共催事業に参加していただいているボランティアメンバーの高齢化。	・ 若干名の増加がみられた。	1. 行事の機会あるごとに若いメンバーを探し、声掛けを行った。
93	受講者の募集（人集め）、魅力ある充実した講座（開催時間の工夫・新たなジャンルの内容の取り入れ）の開設	・ ニーズに合った（学習内容の充実した）講座が実施でき、新規の受講希望者が増えた。	1. 受講後にアンケートを実施し、感想や要望を次回の講座に活かしている。 2. 講座の内容によって、社会人を対象とした場合は、夜間の開設時間とし、希望者の多い講座は、二度に分けて開催している。 3. 広報紙やホームページ、募集チラシの配布、公民館利用者への声掛けをしている。
94	公民館利用者の高齢化・サークル数（人数）の減少が続いており、公民館まつりの協力が得られなくなっている。	・ 講座実施後、サークルに入会した方が数名いた。 ・ 公民館まつりにおいて青少年ボランティア3名が活動し、地区内の方々と交流が図られ好評だった。	1. 現在あるサークルに関連した講座を実施し、興味の出た方へサークル入会を促す。 2. 公民館まつりにおいて、他課で実施している青少年ボランティア事業へ派遣した。

<p>95</p>	<p>〇〇公民館は福島県〇〇市の山間部、茨城県との県境に位置する〇〇町に所在する公民館です。</p> <p>〇〇町は東日本大震災の余震（2011. 4. 11 福島県浜通り地震 いわき市震度6弱）の震源地となり、大きな被害が有りました。また、福島原発事故に伴う放射線量の影響もあり、避難者も含め人口流出が続いています。</p> <p>当館は、震災直後から同年8月までは、避難所として機能を果たし、準備期間を経て同年10月から再開したところですが、来館者数は震災以前（年間平均28千人）の3分の1まで落ち込み、そこからの再起に尽力して参りました。</p>	<p>・町のPRを兼ねた対外交渉事業の成果により、平成26年度の利用者数は、震災前の9割程度まで回復しました。しかし、その利用者数のうち、9割を町外の利用者が占める結果となり、町民の利用喚起に課題が残りました。</p> <p>また、人口流出に歯止めをかけることはできませんが、小中学生に実施したプログラムが10年後にどのような結果として残るか楽しみなところです。</p>	<p>1. 〇〇町のPRを兼ねた事業の実施</p> <p>〇〇町の特産物である「そば」「自然薯」「こんにゃく」「いちご」などを使った料理教室やお菓子作り教室を開催したほか、11月には収穫祭（ほっこり祭）を開催し、特産物を活かした事業を実施しました。</p> <p>また、平成25年と26年の8月には、町内回遊型野外美術展覧会を開催し、約60名の芸術家やパフォーマーが集結し、現代アートを基点とした町興しイベントを開催しました。</p> <p>2 小中学校と連携して郷土教育の実施</p> <p>震災以降の人口流出に伴い、少子化にも拍車がかかり、平成26年3月には、小学校5校、中学校3校が小中各1校に統廃合されたところです。</p> <p>この〇〇町に生きる子どもたちに、田人町の特色や伝統、ここに住む人たちの想いを感じてもらい、郷土愛の醸成を図ることで、田人町の未来を支える担い手として、あるいは、田人町を離れたとしてもふるさとに回帰してもらいたいという願いを込め、学校の授業や行事の中に社会教育が入り込み、各種事業を展開しました。</p> <p>具体的には、こんにゃくや自然薯の栽培（1次産業）から加工（2次）、販売（3次）までの6次化産業体験プログラムや、そば打ち体験などの食育体験プログラム。震源地となった井戸沢断層に関する学習。地域人材を講師とした民話、伝統芸能などの文化学習。廃校となっ</p>
-----------	--	---	---

			た小中学校を活用してのキャンプを開催し、地域住民を招いてのバーベキューなど交流事業を実施したところです。
96	〇〇東部地区は震災による津波で大きな被害を受けた地域で、他の地区に移転された方も多く、震災前と比べて人口が大きく減少している。今後、移転された方を含めた地域住民によるコミュニティやにぎわいの再生に向けてどのように取り組んでいくか。	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバー自らが「やってみたいこと」、「実現したいこと」を出し合い、仲間を広げ、準備を進め、交流会を開催することができ、「またやってみたい」という達成感が得られた。 ・プロジェクトメンバーが話し合いの進め方やイベントの運営について経験を積むことができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 〇〇東部地区住民（出身者含む）、協力団体、〇〇小学校などの10数名が月1回程度集まり、出身者を含む〇〇東部地区住民の交流会を目標に話し合いを行った。事業名は「わたしのふるさとプロジェクト」に決定。 2. プロジェクトメンバーの「やってみたいこと」、「実現したいこと」を出し合い、メンバーの思いを実現できる交流会を企画した。 3. 地域にある〇〇市民センターを会場に〇〇東部地区交流会「来てけさいん♪おもちと太鼓で思い出ばなし」を実施した。
97	津波被害により、他町等へ移った者や、やむを得ず他町で暮らすものが多く、コミュニティ崩壊の危機にある。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級・講座、運動会への参加が年々多くなってきた。 ・復興市を楽しみにしている者が多く、毎回盛況であり、久しぶりに会う友達と話し込んでいる者が多い。 ・未来予想図により、目指すまちづくりが住民に明確に意識づけられた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 震災以前に行っていた町民運動会、敬老会、お盆野球を再開した。 2. 〇〇復興市を催し、住民が楽しく集い、手持ち野菜等を販売する機会を作った。 3. 〇〇村史料を復刻し、津波記録誌を発刊し、地区住民で組織した〇〇復興隊により、まちの未来予想図を作成し、市に提出した。
98	地域との繋がりを強めるリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会から積極的に男女問わず減災を目指し参加するようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 減災を目指した防災リーダー研修会の実施をした。 2. 応急手当の研修会を実施した。 3. それぞれの修了者には、登米消防本部より普通救命修了証を発行していただき、意識の啓蒙を図った。
99	・サービス対象となる管内住民が、仮設住宅や民賃等に分散しているため、一元的な講座	<ul style="list-style-type: none"> ・講座への参加意欲や学習力が高まり、自己の課題へ目を向けることができるようになりつつ、受講者も増加傾向にある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市内仮設住宅(6か所)や管内地区集会所(7か所)への出前講座を実施 2. 講座開催等のPRは、当公民館

	運営等が難しいこと。		だよりの仮設住宅世帯への配布やポスターやチラシ等周知に努めた。
100	震災の記憶を風化させないための取り組み。	<ul style="list-style-type: none"> ・国連防災世界会議の開催に合わせて行った朗読劇の上演や印刷物の配布により、体験者の言葉を多くの方に伝えることができた。 ・実際に被災した地域の状況を見聞きしてもらうことで、参加者があらためて震災を記憶にとどめるきっかけとすることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国連防災世界会議パブリックフォーラムとして、震災被災者の体験記録集「語り継ぐ震災の記憶」をもとにした朗読劇を上演した。 2. 「語り継ぐ震災の記憶」日英対訳ダイジェスト版を制作して、せんだいメディアテークにおいて国連防災世界会議期間中配布した。 3. 被災した六郷・七郷地区を市民がバスで巡り、地域の状況を見聞きする機会を設けた。
101	震災で海を怖がる児童生徒に、この地域は海からの恩恵を受けていること、自然が素晴らしことなど、海に親しむ機会を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの児童生徒が参加し、海水浴を楽しんだ。シーカヤックにも挑戦し、海に親しむことができた。今後も継続していきたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小中学校と相談し、児童生徒の様子を聞く。 2. 地域の団体等に協力を依頼。 3. 公民館事業として、海水浴&シーカヤック体験会を開催した。
102	・市が合併して10年経過しているが合併前の3地区の地域性が逆に参加者のネックとなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ガイドで一覧化したことで全市からの申し込みが可能となり参加者が増加した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3地区で募集している講座を生涯学習の学習ガイドとして一覧化した。
103	他町村企業等の利用が多かった。 電話やFAXでのやり取りしていたため事務量が多かった。	<ul style="list-style-type: none"> ・他町村からの問い合わせもスムーズになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 使用許可申請書・使用料等今年度から町のホームページに掲載し周知を図った。
104	高齢化と、人口減少による各種団体の役員の担い手不足（2世帯3世帯同居の兼業農家が多く、若い世代は、平日日中外に働きにでており、帰りも遅い。）	<ul style="list-style-type: none"> ・40代、50代を中心に、若い世代に徐々に日曜に職員がいることが浸透し、日曜日に来館し、利用申請や団体運営についての相談を持ちかけられることが増えた。また、職員との信頼関係も深まり、親子学級等、公民館事業への参加率も高まった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定管理後（H24.4～）、日曜日に常勤職員1名が交替勤務で常駐し、団体支援や、公民館利用申請等の利便性の向上を図っている。

105	公民館が事務局を持つ各種団体事務が多い。団体との役割分担により事務を効率化する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 事務局事務を把握してもらうことにより、自分達でできることは自分達でという当事者意識が見られるようになった。 団体に問題意識、危機意識が芽生え、自主運営のきっかけとなった。 	<ol style="list-style-type: none"> 会議の都度、また機会がある度に、団体役員・会員に現状や問題点を知ってもらうことで、問題点の共通認識を持つようにした。 現在の公民館で担う団体事務と、団体で担う事務を明確化し、団体で何が出来るか考えてもらうようにした。 会議回数、事業の見直しを行った。
106	地域協働への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域協働組織の設置 	<ol style="list-style-type: none"> 現状の分析 問題点の洗い出し
107	自立した組織への移行	<ul style="list-style-type: none"> 組織の自立化 	<ol style="list-style-type: none"> 組織の役員へ事前に説明 組織による自主活動への支援
108	地区住民との連携・協働による地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度～地区住民の自主参加による意見交換会を2回開催し、住民ニーズと公民館との連携・協働による事業について協議・検討。 平成26年度～前年度の検討結果に基づき、4つの住民参加型事業（地域づくり教室、季節の歳時記教室、囲碁・将棋教室、地区名人の発掘事業）を新設し実施。 ※地域づくり教室での意見交換を経て、地区の高齢者や団塊の世代（特に男性）の引きこもり予防や地域コミュニティーの活性化を目指し、平成27年1月より「地域交流館～ひがしカフェ～」をオープン。お茶会を通じた住民同士のコミュニケーションの充実を図っている。 	<ol style="list-style-type: none"> 住民への周知（必要性の共通認識を持つ） 地域住民の自主参加による地域課題の検討（個人が自主的に参加することで、自由な発想を募る） 課題解決のための事業の実施（地域住民の参画により、持続性のある事業とする）
109	地域コミュニティの振興をどのように図るか	<ul style="list-style-type: none"> 公民館がまちおこしの中核的存在となった。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域のまつり「新田城まつり」の支援連携 まつりに関連した講座の開設
110	センターの事業以外に地域の活性化を図るための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ホテルの里づくりを進める。ホテルまつりの開催、今年で4年目となる。昨年は約1700名の方々に参加してもらう。 	<ol style="list-style-type: none"> 文化財を活用した取り組み 実行委という形で地区全体を巻き込んでの取り組み 環境を意識しての取り組み

111	地域の歴史、文化に学ぶ（歴史資料の収集、整理、史跡の保存整備と活用）	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史、文化を学ぶ会を組織し、毎月1回の学ぶ会の実施。史跡現地見学の実施。 	<ol style="list-style-type: none"> 歴史文化に関わる資料収集と冊子の製作 「学ぶ会」を通じて史跡のボランティアガイドを養成している。
112	安全・安心のまちづくりのための地域リーダーへの支援	<ul style="list-style-type: none"> 地区防災会では、毎年研修会を行っている。（避難所設備の操作、AED取扱） 夏祭りへの学校参加の呼びかけをしている。 	<ol style="list-style-type: none"> 安全・安心のまちづくりのために、地区防災会への講習等の持ち方の助言。 湊夏祭り企画立案への助言
113	地域の子どもは地域ぐるみで育成すること	<ul style="list-style-type: none"> 地域と子どもとの関わりが子どもの健全育成につながっていく 	<ol style="list-style-type: none"> 地域の組織を活かすコーディネーターとしての役割を公民館が果たし、小学校の要請に応じて、学習サポートボランティアを派遣している 地域のお祭りや伝統行事等を地域ぐるみで実施している 関係団体との連携で、子ども育成講座「橘ミニミニスクール」を開設している
114	施設の老朽化	<ul style="list-style-type: none"> 施設は、数年以内に建て替え決定。建て替えにあたり、単なる施設のリニューアルでは無く、地域における社会教育の展開そのものを再認識するようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 利用者が望む施設の検討。 特定の階層の住民だけの利用施設では無く、あらゆる階層の住民が集う施設を検討。 特に、若者世代を招くために何が必要かの検討。（ストリートダンス練習場・バンド練習場など） あらゆる世代が交流できる施設の検討。
115	施設設備の計画的な維持補修及び更新に関する予算措置が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> 緊急性のあるものから順に、優先的に実施する計画を整えることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 維持補修及び更新に係る中・長期計画を作成し、町財政当局と財源及び実施時期等について協議を進めた。
116	公民館施設の老朽化（築40年以上）が進み、施設修繕に経費がかかるようになってきている。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な修繕により、施設の様子が改善され、利用者からの苦情等も少なくなった。 	<ol style="list-style-type: none"> 計画的な施設修繕に努め、小破修繕の段階で修繕を行い、管理経費の削減を図る。
117	公民館施設の老朽化（築40年以上）が進み、施設修繕に経費が	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な修繕により、施設の様子が改善され、利用者からの苦情等も少なくなった。 	<ol style="list-style-type: none"> 計画的な施設修繕に努め、小破修繕の段階で修繕を行い、管理経費の削減を図る。

	かかるようになってきている。		
118	施設老朽化に伴い、修繕予算の確保に取り組む	・古くても、使いやすい公民館	1. 老朽化施設については、小まめな修繕（事前の修繕）
119	文化センター、市民文化会館の管理・事業企画と一体の人員体制のため、業務多岐にわたる。	・中央公民館の業務もバランスよくできるようになり、また、併設の地区公民館にとっても、施設についても理解を深め、窓口においても幅広く対応できるようになった。	1. 課題指摘の事項について、併設の地区公民館にも兼務体制をとった。
120	役場出張所と公民館が併設されている。職員は兼務のため、公民館事業が滞る時もある。	・公民館事業の滞りが少なくなった。	1. 出張所繁忙期には本庁より応援を求める体制を整える。 2. 公金運送業務を業者に委託する。 3. 図書室に図書指導員を置き、図書業務を分担させる。
121	公民館が事務局となりみんなの教室(34団体)文化少年団(6団体)子育て支援ピコロびよびよクラブを行っている、発足当初からの指導員である為、後任が必要。	・指導者の交代・新しい団体の加入など、小さな動きがあった。利用者事務局の話合いの場が多くなりスムーズに行事を進めて行くことが出来た。各団体の規約を充実したため、問題が軽減する。	1. 講座などの募集は、毎戸配布・学校配布・広報掲載などで行っている。 2. 内容についてはホームページに掲載しているものもある。
122	平成25年度(平成26年2月～3月)は大雪で駐車場の除雪作業が困難だった。積雪10センチ程度であれば公民館職員と地域有志1～2人の応援で間に合わせた。	・公民館を利用するばかりではなく、維持するための協力が得られたことは大きな収穫であり、感謝した。 ・公民館と自主クラブとの交流が深まった。 ・作業中のケガ等のトラブルに対する補償保険の工夫が必要。	1. いくつかの自主クラブの代表者に連絡し、除雪作業への参加を要請した。 2. 3回実施して人数は述べ10名程度であったが、男性ばかりではなく女性の参加もあった。
123	予算不足	・講師謝礼の節約やエコ運営の取組みにより、少ない予算の中でやりくりできている。公民館からエコ発信することで地区住民のエコな取り組みの啓蒙につながっていると感じる。	1. 公民館職員、指導員が自ら講師になり講座を行う。 2. グリーンカーテン設置や節電等のエコ運営に積極的に取り組む。

124	講座開催の要望があっても、予算がない。	・チラシで事業の内容を理解し、講座開催と指導の申し入れが数件あり、27年度の実施予定。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種団体と共催。 2. 公民館が行っているゼロ予算事業の目的・内容を理解いただくため、チラシを配布。 3. 自分の特技を地域の方へ伝えてくれる指導者（ボランティア）を募る。
125	〇〇町内6公民館の中で唯一、大ホールに488席の移動式電動可動椅子があり、公民館行事の他、学校行事等様々な行事で使われており、〇〇公民館の使用頻度を高めているが、落とし物、忘れ物等が1つでもあると収納が妨げられ、故障の原因になる。故障になると、百万円近くの修理費がかかることがある。	・落とし物、忘れ物等の減にもつながる。大きな問題は無くなった。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員が床掃除時、床掃除後、落とし物、忘れ物等、入念なチェックをする。 2. 正職員が出し入れをする。 3. 子どものおもちゃや卓球の玉等が入り込むことがあるので、日頃からのチェックも行なう。
126	会議や講座の参加者の減少と遅刻が、事業運営上でも問題になっていた。	・まずは、開始時間には絶対開会することで、遅れてくる人がいなくなったほか、欠席の連絡も必ずくるようになった。遅れてきた人のための振り返りなども行わないようにして、閉会后、周知することで、欠席者が激減。会議や事務連絡等も連携することで、出席者の負担軽減になった。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「会議改善」という名目で、わかりやすい案内文書に変更。 2. 会議や講座の開始時間と終了時間の厳守徹底。 3. 会議や講座なども複合的に開催できるものは一緒に行うようにした。
127	各部屋の利用予定表を出入口にのみ設置していたが、公民館サークルが確認せず部屋を間違えて使用しようとしたことがある（普段定期的に利用していた部屋を別団体が予約していたが、確認を怠ったため）	・改善直後より間違いはなくなり、また「利用者に対して親切な取組」との言葉もいただいた。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各部屋の出入口にも利用予定を表示するようにした。

128	町単位にあった公民館を廃止し、学習センターに集約したため、参加が制限されるようになった。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の広報を町内会に依頼していたが、『サロン』の代表者などに働きかけることにより、参加者が増えた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出前講座により対応。 2. 『サロン』に呼びかけ、参加者を募る。
129	県内の中心に位置するために企業の研修、会議等でよく利用される。町主催の行事等、大きなホールを持った施設がない為、ほとんどの行事が行われる。その為年齢も様々で、高齢者向けの講座等も開かれるが、1階の会議室・研修室がほとんどなのでそれがネックとなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多く利用する団体には1階ロビーの一角にパネルを組み小会議室を作り利用してもらっている。利用者には喜ばれている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. スリッパをなくし靴のままに利用できるようにした。 2. 雨雪等で滑らないよう1階ロビーをジュウタンじきにした。
130	活動の場が被災で残った公民館分館や集会所に限られる。	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後、初めて参加した受講者が多くいた。 ・連続しての参加や次回の開催の声が多く届いている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. バスによる視察研修の実施（単なるバス旅行にならないように、テーマを決めて生涯学習のきっかけづくりになるように心がけた）。 2. ふるさとの歴史、文化を学びながら参加者同士の交流を図る。 3. 仮設等から出て違う景色を楽しむ気分転換を図る。
131	各地域公民館が被災しているため、地区公民館の利用頻度が高く、順番待ちの状況である。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が時間的ゆとりをもって施設利用申し込みをするようになった。 ・利用者間で、場所（室）、時間等を融通し合うようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用目的を聞き、目的によっては談話室等の活用も行っている。 2. 混雑状況を皆に伝えている。
132	指定管理者化に向けて進んでいるが、本施行になった場合、今までの事務局主体の運営では、限界を感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員一人一人が、やりがいを感じ地域センター活動に参加してくれた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 亀田地域センター運営協議会の主体的運営となっているが、事務局任せも多かった。そこで、26年度より、運営委員を健康推進部会、担い手研修部会、地域活動深い3部会に分けて、事業の立案、企画をし、実行することにした。
133	貸館基準の判断	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人一人の判断能力の向上 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前例を参考にする。 2. 全体での共通認識。

134	利用者数に比べて駐車場が狭く、曜日、時間帯によっては異なる団体の利用者同士で感情的になることがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・講師用の駐車場として自主的に周辺の駐車場を借りた。 ・会員の一部用に近所の医院の駐車場を自主的に借りた。 ・呼び出しに協力的になり、他に乗り合わせ、自転車での来館も見られるようになった。 ・早すぎる来館者が少なくなり、苦情が緩和された。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当事者に話を聞いてから、双方のクラブ代表と館長が個別に話し合った。 2. 駐車場は詰めることとし、移動が必要な場合は呼び出しに快く応じるように呼びかけた。 3. 公民館周辺への違法駐車しないことを確認。
135	公民館活動が理解されていなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館だよりの発行や仕事などをFacebook を利用し情報の伝達を行った結果、地域住民に少しずつ理解が広がってきた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎月事業の様子等を掲載した公民館だよりを発行した。 2. Facebook も始めた。
136	公民館の活動が認知されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館だよりを見てくれる人が多くなった。また、来館者の賛辞が直接職員に届くようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館だよりを月1回のペースで発行。 2. 公民館だよりの内容をお知らせだけでなく開設した講座の様子を記事にしたり、写真を多く取り入れたりした。 3. 七夕かざりなど季節にあった展示を意識した。
137	認知度が低い	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度にやってみたい講座・学んでみたい講座など提案してくれるようになった。 ・気軽に立寄ってくれるようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館だよりの発行回数を増やした。地域住民の皆様の為の公民館であることも強調。 2. 各種講座終了後に地元新聞社に、記事を投稿した。
138	中央公民館職員と各地区コミュニティセンター（指定管理）職員との連携の希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士の交流により、情報交換ができ、職員の資質向上にもつながった。 ・市民の方に、中央公民館や各地区コミュニティセンター事業を広く周知できた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中央公民館職員と各地区コミュニティセンターが合同で講座を開催した。 2. 講座開催までに、担当者同士が何回も打合せを行い、知恵を出し合う。 3. 講座当日も役割分担を決め、協力し合って進行する。
139	・課員同士の業務やスケジュールの把握が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・課員の業務やスケジュールを把握しやすくなり、急な案件の際の対応が容易になった。 ・業務内容の把握しあうことで課員同士の確認が促され、事務処理のミスが減少した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 週1回課内会議を開催し、業務やスケジュールについて確認する。 2. 行動予定表を作成し、課員の動きを把握しやすくする。

140	前述の公民館廃止後、地区の文化祭が地域の行事として残った。地区ごとに運営委員会を組織して実施しているが、事務局は学セに有り、負担が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育協会・農業後継者会・PTA など、若い人たちが協力してくれるようになった。 	1. 全体の高齢化により、展示場設営に支障をきたす。地域のボランティア団体に協力要請した。
141	地域の学習センター・コミュニティーセンターとしての役割を果たすこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師となられた方への尊敬。 ・ 講師となられた方の職人としての再認識。 ・ 学習しながら地域のコミュニケーションが深まるとともに地域づくりの足がかりとなる。 	1. 地域の方々を講師として講座を開設している（魚屋さんに魚のさばき方や包丁の研ぎ方、お茶屋さんにおいしいお茶の淹れ方、味噌屋さんに手作り味噌の作り方など）
142	地域との繋がりや人と人との繋がりを公民館の役割としてどう高めていくか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第に公民館に足を運ぶようになり、利用者も増えている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度に向けた地域の方へと話し合いに行った。 2. 環境の整備を図った。
143	職員の意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶や受け答えが全般的に丁寧になりつつある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部・外部研修の活用 2. 公民館職員としての心得の再認識
144	社会教育施設と連携するための公民館の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校、幼稚園、地域との繋がりが少しずつ強くなっているが、PTA との繋がりにもう少し時間を要す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神楽を通じてつながりを深めた。 2. 登下校の見守り隊を結成することに力を注いだ。 3. 社会教育施設の事業に積極的に足を運んだ。
145	事業参加者の高齢化と減少が著しい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の参加者が若干だが増加した。 ・ 利用者の要望による事業を企画し、参加者が増加。 ・ 芸文協との共催事業により、業務量が軽減された。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者にあわせた事業の見直し。 2. 利用者の学習要望を把握し、事業を企画した。 3. 団体との連携により事業運営。
146	講座受講生の多くが高齢者に偏っており、若年層の学習機会を設ける必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の回覧板等の広報以外に、タウン誌等への広告掲載などを図ったことにより、従来学習センターに関心がなかった市民を参加させることができた。 ・ 夜間に実施したことにより、仕事帰りの若い世代が多く参加する講座を実施することができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若い世代が関心を持つ講座を企画立案する 2. 従来の広報手段にとらわれず積極的に広報する。 3. 講座時間を夜間に実施することで、仕事帰りの若い世代をターゲットに絞る。

147	公民館利用者が固定化・高齢化しており、地域の中にあっては、新規の利用希望者が利用しづらい雰囲気がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな受講希望者や、これまで参加の無かった方々からの問い合わせが出てきた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 館内に“成果発表コーナー”を設け、公民館の活用方法の一つとしての提案を行った。 2. 広報紙面へ、講座募集案内に加え、実施結果報告、自主的な公民館利活用事例等を掲載し、公民館の紹介を行った。 3. 講座の中で、課題についての問いかけを行った。
148	公民館講座の開講講座が固定されており、参加者が高齢層に偏っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・例年にない公民館講座が多く開講され、公民館利用者の増加につながった。 ・アンケートにあった講座をいくつか開講し、新しいサークルの結成を促した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会教育担当に限らずに、社会体育担当にも公民館講座の企画業務を依頼した。 2. 公民館管理施設にアンケートボックスを設置に市民の要望を広く募った。 3. 他地域の公民館講座で人気の講座を岩城地域でも開催した。
149	<ul style="list-style-type: none"> ・職員不足 ・参加者の高齢化 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体との連絡調整を密にし、イベント等のブッキングを無くし、協働で事業に取り組んだ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館、社会福祉協議会、保健センターとの連絡調整をした。 2. 参加者の取り合いにならないように、事業日程を共有した。
150	地区の中心部に新たな団地が造成され、その団地内すべてに自治組織が設立されていないことから、公民館行事等への参加が少なく新旧住民の交流の場が提供できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・27年に入り、新たな自治組織（町内会）が設立され、自治組織の役員であるが公民館との繋がりが出来つつある。また、子どもや幼児を持つ親（母親）ではあるが公民館への来館が増えてきている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館講座において、子どもや幼児を持つ親等を対象とした内容を企画。 2. 公民館の運営に携わる旧住民の方々に新たな自治組織設立に向けたサポートを依頼。
151	少年教育の講座の実施について、東日本大震災以降、参加者数の減少が続いていた。また、地域団体との共催による運営体制が不十分な状態が続いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプや宿泊学習など、子どもにとって魅力的な屋外活動を多く企画したため、震災後3年が経過し受講生が震災前の水準に回復した。 ・若い青少年指導員を委嘱し1年が経過し、より子どもとの距離が縮まり講座が活性化した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 震災以降十分でなかった屋外活動を多く取り入れる。 2. 若い指導者を使い活性化を図る。
152	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回同じ顔ぶれではなく「公民館に初めて入ったよ」と言う人が増えつつある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講座参加者で運転免許を持ってらっしゃる方に乗合わせをお願いした。

153	限られた予算での講座開催となるため、参加者が知識・技能を習得しにくい。 学習ニーズの把握が難しいため、講座を開催しても参加者が継続して集まるものと、そうでないものがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の受講者の要望に合わせて後期の講座を企画することで、確実に受講者が集まるようになった。 受講者有志によって、講座を開催しない月は自主的にサークルとして活動を行うようになった。 (2012 後期講座以降からサークル活動開始～2015) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年度前半に講座を開催し、参加者の要望によって同じ講座を後期にも開催した。(2012～2014) 2. 単年度の講座開催ではなく複数年度に同様の講座を開催した。(2012～2014)
154	公民館の講座がマンネリ化しているのか、顔ぶれが変らない。新しい顔の参加できる講座内容を探す。	<ul style="list-style-type: none"> ・税改正前だったこともあり、関心がある住民が参加してきた。定員オーバーで好評であった。 ・次の講座に期待された。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今の社会的なニーズ、何が求められているか。住民に直接関わる内容を検討しているとき、相続対策について無料で講座を開いている弁護士等によるグループを見つけた。 2. 新聞、テレビ等での情報収集し、「相続対策」教養講座を開いた。
155	事業における周知や公民館活動の認知が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種事業の参加者が増加した。 ・参加できなかったが次回講座の際は参加するという声も多くあり、成果はないが次回につながった。 ・直接依頼に伺うこと自体が公民館活動の周知にもなり、次期開催時に市民の協力を得られやすくなった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域内のお店や郵便局、銀行などの市民の利用者が多い施設に直接依頼に行きポスター等を貼った。 2. 支所だよりや市広報などに積極的に掲載を依頼した。 3. 公民館に窓口にくる市民の方に積極的に周知した。
156	<ul style="list-style-type: none"> ・センターだよりが配布されていない地域の把握 ・顔の見える関係づくりへの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民センターに対して少しずつではあるが、理解や協力が得られるようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講座など市民センターの情報提供の手段として、今までセンターだよりを配布していない地域(町内会)に配布を行った。 2. 市民センターの事業に関する懇話会を開催した。 3. 町内会長さんに地域散策の講座の案内役として協力依頼を行い、実際に講座に参加してもらった。
157	公民館と地域の連携、地域館の連携の希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ・管内一斉「花いっぱい運動」の実施により、各集落内の協力、共働の意識の高揚が図られている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の美化活動と異年齢間の交流を推進

158	<p>使用申請書の提出が遅れることがある。</p> <p>また、使用するにあたって予約が入れられていないことがある。予約を入れていても、キャンセルになった場合の連絡がない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当日には、使用申請書を出してくれるようになってきている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 使用する際に一言声がけをして、次、気をつけてもらう。 2. 正しい予約手順の確認を促す。 3. 掲示板等で注意事項を掲示して、多くの人の目に触れるようにする。
159	<p>施設の老朽化による設置備品等の不便などから安全面にも課題があり、新しい施設へ利用者が流れる傾向にある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に利用されている方々から、利用しやすくなったという声が聞かれる。 ・施設の雰囲気が新しく変化することで、設備備品を丁寧に扱うようになった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者が快適に利用できるよう、老朽化が激しい部分については修繕を行った。 2. 企画講座や貸館のPRなど、会報誌を通じて積極的にPRした。
160	<p>公民館の運営・再建に対する住民の理解</p> <p>小学校の統合により、公民館が地域の核としての役割を担う必要が出てきたが、コミュニティセンターとの違いや住宅再建・復興住宅の建設が終わっていない状況で公民館を再建することへの理解を得る必要があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの再生における公民館の重要性、コミュニティセンターとの違いへの理解を得られた。また、他の地区の分館の状況を知ることができて参考になったという意見もあった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象区域が広く人口も多い4分館を会場とし、中央公民館長・4分館長と住民の討論会を実施 ※内3分館は被災した分館

4 公民館経営診断におけるリンケージの作成

(1) 診断名、改善・整備の成果、改善・整備の分類項目の設定

3で示した160の改善事例とこれまでの公民館経営診断技法の先行研究で示した枠組に基づいて、公民館経営診断のための「診断名」「改善・整備の成果」「改善・整備」の分類項目を、それぞれ表3、表4、表5のように設定した。(分類項目の設定についての詳細は、原義彦「公民館経営診断における『診断名』『改善・整備による成果』『改善・整備』の連関 - 分類項目間のリンケージの構築を意図して-」(『日本生涯教育学会論集』37,2016,pp.63-72)(巻末資料に転載)を参照されたい。)

なお、ここで示した分類項目は、今後、実態に合わせてよりの確な項目に修正していく必要がある。また、新たな項目を追加することもある。

表3 経営診断の診断名候補の分類

分類番号	診断名
領域Ⅰ	事業のPDCA
111	講座参加者、利用者の固定化
112	講座参加者の減少、利用者の減少
113	参加者が継続して集まる講座と集まらない講座がある
114	対象者、地域人口の減少
115	別の施設に利用者が流れる
116	新規受講者が少ない
117	自主学习サークル、団体の減少
121	事業の周知が不足
122	主催事業への参加促進
124	地区別で利用者に偏りがある
141	講座・教室の不足(体育以外)
143	講座内容の充実
144	子育て事業の推進
145	講座が受講者主体でなく受身的(自らの学びの意識が高い)
146	限られた予算の講座の中で、参加者が知識・技術を習得しにくい
147	公民館事業の活性化
148	人的、財政的事業により単独事業(新規)の実施は困難
149	苦情により放課後子ども教室の存続が問題となった
150	地域団体との共催事業の運営体制が不十分
161	学習ニーズの把握が難しい
162	職員減により講座の企画、運営が困難
163	公民館事業ボランティアメンバーの高齢化
領域Ⅱ	交流、地域づくり
211	コミュニティ事業への参加者・団体の減少
212	震災による地域人口減少
214	震災で海を怖がる子どもがいる
215	地域内各地区住民の交流の不足

216	地域団体役員、指導者の後継者不足
217	地区住民との連携協働による地域の活性化
218	地域の子どもは地域ぐるみで育成する
219	地域との関係づくり、地域との連携
領域Ⅲ 施設運営、施設・設備の管理	
311	施設の破損、汚損、老朽化
312	職員の不足
313	予算の不足
314	収納座席の故障（利用方法、注意喚起）
315	出席会議の遅刻
316	確認ミスによる利用サークルの部屋の間違い
317	町単位の公民館を学習センターに統合したことによる参加の制限
320	利用する部屋が一部に集中
321	活動場所が被災で残った分館や集会場等に限られる
322	指定管理者への移行後の事務局体制の不安
323	貸館基準の判断
324	駐車スペースについての利用者間のトラブル
領域Ⅳ 役割意識と行動、役割理解	
411	公民館活動が理解されていない、公民館の認知度が低い
412	中央公民館職員と地区コミュニティセンター（指定管理者）の職員との連携の希薄化
413	事業は地区に残って実施しているが、事務局はセンターにあり負担が大きい
414	地域の学習センター・コミュニティセンターとしての役割を果たす
415	職員の意識の向上
416	他施設、機関との連携強化
領域Ⅴ その他	
511	利用者の交通環境・移動手段が十分でない

表4 経営診断の成果名候補の分類

分類 番号	成果名
領域Ⅰ 条件整備、環境整備	
111	施設・設備の計画的な修繕
112	施設・設備の使いやすさの向上
113	室内環境の整備
117	駐車、駐輪の環境整備
領域Ⅱ 役割意識、役割理解、他施設との関わり	
211	職員の意識、理解、利用者対応の向上
212	職員の公民館改善に対する理解の向上
215	住民による公民館への理解・関心の向上
216	他施設との関係強化
領域Ⅲ 公民館事業の実施とそれに関わる知識	
311	受講者、参加者、利用者の増加
312	受講者の属性等のバランスがとれる
313	受講、利用の回復、再開（震災後など）
314	施設利用、受講申し込みの利便性の向上

317	講座運営の活性化
321	自主学习グループの組織化と活動支援
322	地域の団体、自主学习グループとの連携協力の促進
325	新規講座、多彩な内容、方法の講座の実施
327	公民館活動の情報提供と理解の促進
328	住民による企画講座の実施と促進
331	事業の円滑な運営
333	各種会議の的確な運営と参加
341	職員の資質能力の向上
領域Ⅳ 職員、協力者・支援者の関係と充足	
411	他機関との連携協力の促進
412	協力者等との関係づくり
414	地域団体の育成と活動支援
415	公民館と自治会、町内会との連携協力の促進
416	住民と公民館の協議
421	職員間の協力と共通理解の促進
領域Ⅴ 利用者間の関係、利用者、関係機関の充足	
521	受講者、利用者の活動の充実
522	受講者、利用者の交流の促進
523	学習したことの意義、学習成果の理解
524	講師等への感謝
525	今後の学習希望、活動希望の顕在化
531	公民館利用の利便性の向上、公民館の理解向上
541	落とし物、忘れ物の減少
領域Ⅵ 地域における学習の向上、地域活動の向上、発展	
612	住民の地域への関心の向上
614	学習成果の発表、地域での活用
615	住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上
616	公民館の地域づくり支援機能の向上

表 5 経営診断の改善・整備名候補の分類

分類 番号	改善・整備名
領域Ⅰ 役割、知識、行動の充実・向上	
111	講座等の内容の改善、充実
112	講座受講対象の変更
113	講座等の開催方法等変更
114	講座等の周知内容方法の充実
115	講座等の企画、運営方法の改善
116	広報の充実、強化
117	利用申し込み、申請方法の利便性の向上
118	館内の歩行、移動の利便性、安全性の向上
119	施設、設備の補修、修繕、改善
120	各種計画策定

122	施設の利用予定、利用方法、注意事項等の明示
123	受講者への学習活動、学習希望等の調査
124	利用団体の育成、活動支援
125	住民への公民館の必要性の周知
126	館内にアンケートボックスを設置
127	地域防災活動とその支援
128	地域の自然、伝統、文化の継承、保存、活用支援
129	住民の学習関心の把握
130	指導者、ボランティアの養成、活動支援
131	公民館の事業、運営等に関する協議の場の設定
130	図書利用、読書支援の充実
領域Ⅱ 職員、協力者・支援者の関係促進	
211	他施設、団体との連携
212	学校との連携
213	多様な講師の選定、ボランティアの育成
214	庁内の連携
216	組織、団体の育成、活動支援
217	公民館支援組織、団体の育成
218	会議開催方法の見直し、改善
219	事業運営体制の整備
220	自主学习サークルとの協力関係づくり
領域Ⅲ 職員組織の向上	
311	職員の会議
312	施設、設備等の使用、管理と体制整備
314	他の公民館職員との連携協力
315	研修の実施、研修機会の確保
316	公民館職員としての役割、心得を意識する
317	日常業務についての情報共有
領域Ⅳ 地域社会の発展、向上	
411	地域課題の検討（現状分析、課題の洗い出し）
412	震災に関わる記録、震災からの復興への支援
413	学習成果発表の支援
414	住民の交流拠点としての公民館のあり方の検討
415	安心、安全な地域づくりへの支援

(2) 公民館経営診断のためのリンケージ

さらに、これらの分類を活用して、公民館経営診断のためのリンケージを検討する。調査で得られた公民館の経営改善の事例（表1）を、表3、4、5の分類に基づいて分類番号で示すと表6のようになる。

表 6 公民館の経営改善事例の分類

事例 No.	診断名	改善・整備による成果名	改善・整備名
1	111	311	116, 111
2	111	311	116
3	111	311	111, 113, 116
4	111	522, 311	116, 111
5	111	311	114, 112, 411
6	111	311	113, 111, 112
7	111	311	112, 116
8	111	311	111, 112, 113
9	111	521	111, 113, 112
10	111	522	111, 116, 116
11	111	311	112, 115
12	111	523, 321	124, 112
13	111	311, 327	114, 111
14	111	311	111, 116, 124
15	111	311	111, 111
16	111	311	124
17	111	116, 311	111
18	111	311	111, 114
19	111	615, 325	112, 111, 212
20	111	311	111, 112
21	111	311	115, 114, 117
22	112	311	111
23	112	311	116, 116, 116
24	112	311	116
25	112	314	135, 135
26	112	411	211, 211
27	112	311	123, 111, 114
28	112	311	114
29	112	311	113, 117
30	112	311	211, 115
31	112	214, 311	114, 112, 113, 211
32	112	311	113, 111
33	112	522	211, 111
34	112	523, 215	113, 113
35	112	615	111, 111
36	112	311	116
37	112	311	111, 116, 114, 114

38	112	615	211
39	112	311, 524	113, 211, 111
40	112	311, 522	116
41	112	311	111, 113
42	112	311	113
43	112	311	113, 112, 116
44	112	311	151, 113, 112
45	112	612, 311	411, 111, 411
46	112	522	112
47	112	525	112
48	112	521, 522	116, 116, 111
49	112	614, 311	116, 111
50	112	311	112, 112, 112
51	113	321	116
52	113	113, 314	135
53	114	522	211
54	114	522	211
55	116	215	161
56	117	614	413, 413
57	121	311	114, 116
58	121	311	161, 114, 114, 116
59	122	615, 311	111
60	122	311	213, 111
61	123	312	117, 114
62	124	312	113, 111
63	141	521, 321	111, 213
64	141	521, 311	112, 114, 114
65	141	521, 312	115, 112
66	141	521	111, 115
67	141	325	111, 111, 114
68	143	521, 311	111, 111, 114
69	143	521	115, 111
70	143	614	116
71	143	311	316, 316, 316
72	143	325	115
73	143	311, 212	111, 311
74	143	421, 524	213, 111
75	143	521	116
76	143	211	315, 211, 111
77	143	523	111, 111
78	143	521, 612	115

79	143	325	213
80	143	312	111
81	145	317	115, 161
82	147	325	115
83	147	311	113
84	147	321	132
85	147	614	129, 111, 413
86	148	615, 311	115, 213
87	149	315, 316	113, 113, 111
88	162	521, 522	115
89	162	421	112, 211
90	162	331, 113	213
91	162	411, 412	115, 213, 211
92	163	311	116
93	163	311	115, 116, 116, 116
94	163	321, 522	111
95	212	313	212
96	212	525	115, 411, 111
97	212	525, 614	412, 412
98	212	312	112, 112, 112
99	212	521, 311	113, 116, 116
100	212	523	412
101	214	523	212, 212, 111
102	215	314, 311	116
103	216	322, 124	116, 116
104	216	321, 612, 311	312
105	216	414	211, 211
106	216	414	124, 124
107	217	615	411
108	217	416	125, 411, 411
109	217	616	128, 128
110	217	616	128, 217, 128
111	217	321	128, 128
112	217	325	412
113	218	615	130, 128, 211
114	311	211	119, 414
115	311	111	120
116	311	111	119
117	311	111	119
118	311	112	114
119	312	421	214

120	312	331	214, 215, 135
121	312	314	117
122	312	322	220
123	313	118, 611	115, 312
124	313	328	211, 211
125	314	115, 541	312, 312, 312
126	315	333	218, 218, 218
127	316	531	122
128	317	311	113, 114
129	320	114	118, 118
130	321	313, 525	113, 111
131	321	522	117, 117
132	322	412	219
133	323	341	312, 312
134	324	117	217
135	411	215	116, 116
136	411	327, 532	116, 116, 118
137	411	525, 615	161, 114
138	412	421, 341	211, 211
139	412	421	311, 317
140	413	322	211
141	414	524	213
142	414	311	125, 125
143	415	211	315, 316
144	416	216	128, 415, 211
145	111, 112	311	111, 111, 211
146	111, 112	311	111, 116, 113, 116
147	111, 116	311	413, 161, 115
148	111, 143	325, 311	214, 126, 111
149	111, 312	413	211, 113
150	112, 215	415, 311	213
151	112, 150	313, 417	111, 213
152	112, 511	615	115
153	113, 146, 161	311, 531	113, 113
154	116, 143	521	111
155	121, 411	311, 615	116, 116, 116
156	121, 219	215	116, 131, 213
157	219, 416	616	128, 128
158	318, 318	321	122, 122
159	341, 115	531	119, 116
160	411, 416	215	111

この表の見方は、事例 No.1 であれば、診断名は「111 事業参加者、利用者の固定化」（表 3 より）で、「116 広報の充実・強化」（表 4 より）と「111 講座等の内容の改善、充実」（同）という改善・整備の方法によって、「311 受講者、参加者、利用者の増加」（表 5 より）という成果が得られたということである。3（2）で記述したように、改善の手立てにあたる「改善・整備名」には 2 つ以上の内容があげられる事例がある。また、「改善・整備名」に同番号が複数記載されている事例は、改善・整備名の分類は同じでも異なる 2 つ以上の方法がとられていると判断した場合を示している。

さらに、「改善・整備による成果名」でも、2 つ、あるいは 3 つの成果名があげられている事例があることも注意したい。これは、改善・整備による成果は 1 つとは限らず、2 つ以上の成果が見られる場合があるということである。

では、ここからは経営診断におけるリンケージの作成を考えていきたい。ここでいうリンケージとは、「診断名-改善・整備による成果名-改善・整備名」の結びつきのことである。表 6 にある 160 の事例にみられる 1 つ 1 つの「診断名-改善・整備による成果名-改善・整備名」はリンケージということが出来る。例えば、事例 No.27 であれば、「112（診断名）-311（改善・整備による成果名）-123,111,114（改善・整備名）」がリンケージとなる。表にすると表 7 のように表すことができる。

表 7 事例 No. 27 にみられるリンケージ

診断名	講座参加者数の減少、利用者の減少（112）
改善・整備による成果名	受講者、参加者の増加（311）
改善・整備名	受講者への学習活動、学習希望の調査（123） 講座等の内容の改善、充実（111） 講座等の周知内容、方法等変更（114）

また、このようなリンケージを考える場合は、経営改善を時間の経過に沿って理解するのとは異なり、「診断名→改善・整備による成果→改善・整備」の順で捉えていくことが重要である。なぜなら、「診断名」という問題状況をどのような状況に変容させたいか（期待する「改善・整備による成果名」）があるからこそ、そのために有効な手立てが「改善・整備名」であると考えからである。そのため、同じ診断名であっても、期待する成果が異なれば、改善・整備の方法も異なる場合がある。

（3）公民館経営診断のリンケージのモデル作成

信頼性の高い経営診断技法を開発するためには、信頼度の高いリンケージを作成する必要がある。表 7 のリンケージはあくまでも事例 No.27 にみられた経営改善による公民館の変容

をコード化したにすぎないため、より確実性の高いリンケージを開発していくことが必要となる。

そこで、ここでは今回得られた公民館の経営改善の事例に比較的共通してみられる分類名に着目することで、信頼性の高いリンケージを作成する。具体的には、表 6 で示した事例の中で診断名として挙げられている事例数が多い「111 講座参加者、利用者の固定化」「112 講座参加者の減少、利用者の減少」「141 講座・教室の不足（体育以外）」「143 講座内容の充実」「212 震災による地域人口減少」「311 施設の破損、汚損、老朽化」を取り上げる。

表 8-1 は「講座参加者、利用者の固定化」のリンケージである。この診断名（単独のみ）の事例は 21 あり、そのうち「改善・整備による成果名」で共通して多いのは「受講者・参加者数の増加」である。そのための「改善・整備名」として比較的共通して挙げられている内容が表 8-1 にあるとおりである。

表 8-1 「講座参加者、利用者の固定化」のリンケージ

診断名	講座参加者、利用者の固定化（111）
改善・整備による成果名	受講者、参加者の増加（311）
改善・整備名	講座等の内容の改善、充実（111） 広報の充実、強化（116） 講座受講対象の変更（112） 講座等の開催方法等変更（113）

同様に、「講座参加者の減少、利用者の減少」のリンケージが表 8-2 と表 8-3 である。表 8-2 は、改善・整備による成果名を「受講者、参加者の増加」としたときの場合、表 8-3 は成果名を「受講者、利用者の交流の促進」としたときの場合である。このように、期待する成果が異なると、改善・整備の方法で異なる内容があがってくる。

表 8-2 「講座参加者数の減少、利用者の減少」のリンケージ①

診断名	講座参加者数の減少、利用者の減少（112）
改善・整備による成果名	受講者、参加者の増加（311）
改善・整備名	広報の充実、強化（116） 講座等の内容の改善、充実（111） 講座等の開催方法等変更（113）

表 8-3 「講座参加者数の減少、利用者の減少」のリンケージ②

診断名	講座参加者数の減少、利用者の減少（112）
改善・整備による成果名	受講者、利用者の交流の促進（522）
改善・整備名	広報の充実、強化（116） 講座受講対象の変更（112） 他施設、他団体との連携（211）

表 8-4 は「講座・教室の不足（体育以外）」のリンケージである。事例は 5 つのみで少ないが、その中で改善・整備による成果名として比較的多いのが「受講者、利用者の活動の充実」であり、その改善・整備名として「講座等の内容の改善、充実」「講座等の企画、運営方法の改善」「講座受講対象の変更」が挙げられる。

表 8-4 「講座・教室の不足（体育以外）」のリンケージ

診断名	講座・教室の不足（体育以外）（141）
改善・整備による成果名	受講者、利用者の活動の充実（521）
改善・整備名	講座等の内容の改善、充実（111） 講座等の企画、運営方法の改善（115） 講座受講対象の変更（112）

表 8-5 は、「講座内容の充実」のリンケージである。表にあるように、改善・成果名を見ると、「講座の企画、運営方法の改善」とともに、「講座等の内容の改善、充実」が挙げられている。後者は診断名と同じ内容であり、このままでは経営診断には活用できないため、「講座等の内容の改善、充実（111）」をさらに具体化した内容を整備していくことが必要である。

表 8-5 「講座内容の充実」のリンケージ

診断名	講座内容の充実（143）
改善・整備による成果名	受講者、利用者の活動の充実（521）
改善・整備名	講座等の企画、運営方法の改善（115） 講座等の内容の改善、充実（111）

表 8-6 は「震災による地域人口減少」のリンケージである。これは事例数が 6 で、そこに共通する改善・整備による成果名を見出しにくかったため、比較的内容に近い「今後の学習希望、活動希望の顕在化」などの 3 項目を成果名としてあげることにした。その中で、比較的共同してみられた改善・整備名は「震災に関わる記録、震災からの復興への支援」「講座等の内容の改善、充実」である。

表 8-6 「震災による地域人口減少」のリンケージ

診断名	震災による地域人口減少（212）
改善・整備による成果名	今後の学習希望、活動希望の顕在化（525） 学習したことの意義、学習成果の理解（523） 受講者、利用者の活動の充実（521）
改善・整備名	震災に関わる記録、震災からの復興への支援（412） 講座等の内容の改善、充実（111）

最後に、表 8-7 は「施設の破損、汚損、老朽化」のリンケージである。これは表 8-5 と同じように、診断名と改善・整備名が類似した内容のため、改善・整備の内容をより具体化する必要がある。そのため、共通してみられた項目ではないが、事例 No.115 にのみ挙げられていた「各種計画策定」を改善・整備名に追加した。

表 8-7 「施設の破損、汚損、老朽化」のリンケージ

診断名	施設の破損、汚損、老朽化 (311)
改善・整備による成果名	施設・設備の計画的な修繕 (111)
改善・整備名	施設、設備の修繕、補修、改善 (119) 各種計画策定 (120)

以上のように、経営改善の事例の分類の結果を用いて、公民館経営診断のリンケージのモデルを作成してきた。経営診断技法を確立するためには、まだ多くのリンケージの開発、作成が必要である。一方では、ここで示したリンケージについても検討しなければならない課題は数多くある。例えば、診断名の決定をどのように行うか、成果をどのように測定するか、改善・整備名の具体的な内容は何かなどである。信頼性の高いリンケージの構築を目指し、これらの課題に取り組んでいきたいと考えている。

資 料

- 1 「公民館運営の充実・改善の取組に関する調査」調査票
- 2 原義彦「公民館経営診断における「診断名」「改善・整備による成果」「改善・整備」の連関 -分類項目間のリンケージの構築を意図して-」、『日本生涯教育学会論集』37、2016、pp.63-72、所収論文

公民館運営の充実・改善の取組に関する調査

2015年3月
秋田大学教育文化学部
生涯学習・社会教育学研究室

ご記入者様ご所属・職名・氏名		
ご連絡先(電話番号)		
ご連絡先(電子メールアドレス)	@	

◆貴館(センター)の概要

(1)貴館の名称		
(2)貴館の所在地	県	
(3)中央館・地区館の別	←1中央館 2中央館(地区館併設または地区館機能併有) 3地区館	
(4)運営形態	←1市町村直営 2指定管理者	
(5)管内人口(2014.10.1現在)		人

(6)職員数

	専任 (常勤)	兼任 (常勤)	非常勤	
館長				職員総数
教育担当職員(主事等)				社会教育主事発令職員数
その他の職員				社会教育主事有資格者数

(7)施設・予算

施設の単独・複合の別		←1単独施設 2複合施設
施設のべ床面積(m ²)		
学習活動で利用可能な室数		
	26年度の事業費 総額(千円)	千円

(8)事業(主催)の状況(26年度)

学級・講座数	
講演会、文化祭等の集会 事業(単発事業)	

(9)利用状況(26年度間、または26年3月中の記入日までの状況)

事業参加者のべ 人数(人)		人
団体利用、個人利 用のべ人数(人)		人

ここからは、貴館の運営における課題、充実・改善の取組についてお聞きます。

ここでいう、「運営」とは、館の目標・計画の策定、各種事業の企画・実施・評価、利用者・学習グループ・住民・地域との関係づくり(学習支援、団体育成、相互の仲間づくり支援)、まちづくり支援、事業成果・学習成果の向上、他施設・機関との連携、地域の諸団体の調整、施設・設備等の整備(安全管理や災害対策を含む)、予算編成・執行、公民館職員の資質向上、職員相互の関係づくり等、公民館経営の全般にかかわる内容を含んでいます。

Q1-1 貴館の運営で、課題(問題点だけでなく、一層の充実・向上を図ることも含みます)としてお考えのことはありますか。

	1 ある 2 ない
--	--------------

Q1-2 貴館の運営で課題として考えていることがあれば、その主な内容を3項目程度、箇条書きで簡単にお書きください。

①
②
③

(本用紙は「調査表ご記入の方法」に記載のウェブサイトよりダウンロードしてご記入ください。)

Q2 貴館の運営における課題で、意識的にその改善に取り組んだことで、成果や変化がみられる事例がありましたら、
a)その課題、b)改善の手だて・手法、c)取組みによる成果・課題解決の徴候や結果を、具体的にお書きください。
課題の大小は問いませんので、日頃の取組を通じて変化が見られる事例を1～3つ程度、お聞かせください。
b)改善の手だて・手法が2つ以上あれば、改善に有効と思われる順に番号をつけてお書きください。また、改善に取り組まれた時期や成果が見え始めた時期など、時間的経過もおわかりになる範囲でご記入ください。

<事例①>

a 運営における課題

--

c 改善の取組による成果や変化

--

b 改善の手だて・手法

1
2
3

<事例②>

a 運営における課題

--

c 改善の取組による成果や変化

--

b 改善の手だて・手法

1
2
3

<事例③>

a 運営における課題

--

c 改善の取組による成果や変化

--

b 改善の手だて・手法

1
2
3

お忙しいところ、ご協力をありがとうございました。

公民館経営診断における「診断名」「改善・整備による成果」「改善・整備」の連関 -分類項目間のリンケージの構築を意図して-

原 義彦
(秋田大学)

【要旨】

本論文は、公民館経営診断技法の開発作業の一環として、公民館経営診断における「診断名」「改善・整備による成果」および「改善・整備の方法」の三者の各分類項目とリンケージの開発を行うものである。公民館の経営改善の事例を収集し、それをもとに「診断名」「改善・整備による成果」および「改善・整備の方法」の具体的な分類項目を抽出し、その分類項目間の連関を分析した。これらの分析を通じて、診断名「講座参加者数の減少、利用者の減少」と「地域住民との連携協働による地域の活性化」のリンケージを開発した。さらに、これらのリンケージについて考察を行い、今後の公民館経営診断のリンケージ構築に向けた課題を提示した。

1 本論文の目的

本論文では、公民館経営診断技法の開発作業の一環として、公民館経営診断における「診断名」「改善・整備による成果」および「改善・整備の方法」の三者の各分類項目とリンケージ¹⁾の開発を行うとともに、経営診断のためのリンケージ構築に向けた課題を提示する。

公民館をはじめとする社会教育施設は、中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」（2008年2月）にあるように、住民の地域社会への貢献やコミュニティづくりへの意識を高め、地域独自の課題や公共の課題に対応するような学習支援機能を強化することともに、地域の社会教育推進の拠点となることが期待されている²⁾。このうち公民館にあっては、地域の課題解決に向けた支援を行い、地域における「公共」を形成する拠点となることなどが求められている。このように、公民館には現代の地域がかかえる諸課題に対応し、地域づくりに寄与していくことへの期待がある。

一方、公民館の現状をみると、全国の公民館数は14,681であり（文部科学省『社会教育調査 平成23年度』）、平成11年度と同調査以降、この数は減少傾向にあり現在に至っている。これらのうち、地域や住民の課題に基づいて学習のための事業化を図り、学習支援を通じて地域の課題解決や地域づくりに貢献している公民館もあれば、事業の展開に課題を抱えている公民館や事業の成果を発揮できてない公民館などもあり、地域における公民館の実態は多様となっている。

公民館が各地域の課題に対応してその機能を果たすことが求められていることを考えれば、個々の公民館の経営状況を正しく捉え、経営上の問題があればそれを明確にした上で、その解決や改善の方向・方策を明らかにすることが不可欠である。このことに有効と考えられるのが公民館経営診断とその技法である。

公民館経営診断技法の開発にかかわる先行研究では、公民館の経営診断では経営の問題状況を示す「診断名」、期待される「改善・整備による成果」、問題を解決するための「改善・整備の方法」を設定し、それぞれにおいて具体的な内容を表す項目（分類）の作成の必要性とその作成例が示される³⁾とともに、それらの項目間の関連の検討の必要性が言及されている⁴⁾。公民館経営診断技法の体系化・精緻化を図るためには、「診断名」および「改善・整備による成果」として作成する具体的な分類項目の検討（定義、診断に必要な診断指標、診断基準の設定等）とともに、分類項目間のリンケージの開発が不可欠である。経営診断におけるリンケージとは、「診断名（項目）」、期待する「改善・整備による成果（項目）」及びそのための「改善・整備の方法（項目）」の三者の有効な結びつきのことである。リンケージの開発は、公民館経営の問題の解決に適した改善方策を提示する経営診断技法の開発には極めて重要な検討課題である。これまで、公民館経営についての個別聞き取り調査に基づいてリンケージを抽出する試みは行われているが⁵⁾、質問紙による広範囲の調査に基づいてリンケージの開発とその全体を構築するまでには至っていない。

2 研究方法

(1) 分析の枠組

本論文では、看護診断のうち、特に NANDA 看護診断⁶⁾の枠組を用いることにする。その理由は、NANDA 看護診断における看護診断分類、看護成果分類、看護介入分類のそれぞれがエビデンスに基づいて行われていること、また、「看護診断-看護成果-看護介入」のリンケージとその構築方法が本論の分析に適していることなどがある。これに基づいて、公民館経営診断の枠組を示すと、図1のようになる。公民館経営診断は、まず「公民館経営診断による診断」によって経営上の問題点を明らかにする。次に、経営改善を行ったあとの期待される経営状態を想定することになる。これが「改善・整備による成果」である。そして、期待される成果を導くための有効な手段や方法が「公民館経営の改善・整備」である。経営診断において、これらの三者には、具体的な分類項目が必要となる。この三者間、あるいは何れか二者間の分類項目の有効な関係がリンケージであり、リンケージが明らかになれば、経営上の問題点が明らかになった時点で、改善後の期待される成果とそのため的手段や方法を決定することが可能となる。経営診断技法を開発するには、各分類項目の定義の設定、さらにそれぞれの分類項目を特定する、あるいは判定するための診断指標の開発等が必要であるが、本稿では、公民館の調査をもとにして得られた公民館経営上の課題とその改善の事例を活用して⁷⁾、リンケージ構築に向けた検討を行う。

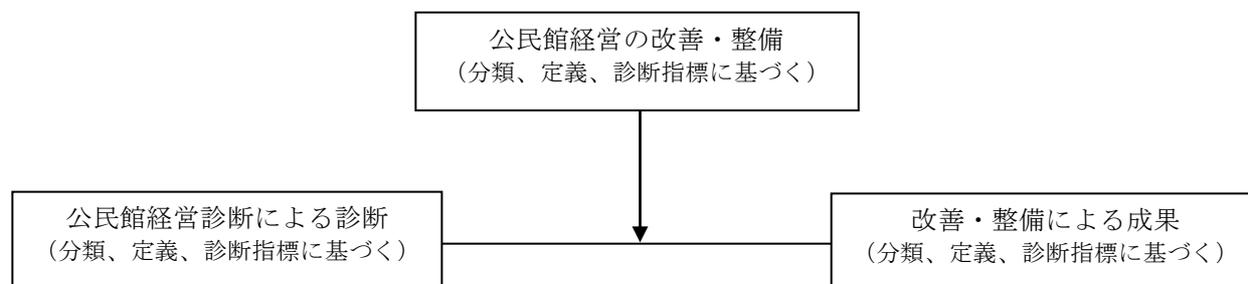


図1 公民館経営診断における診断、改善・整備、改善・整備による成果の関係

(出典：黒田裕子『NANDA-NIC-NOCの理解』第3版、医学書院、2008、p.76の図をもとにした。)

(2) 分析の方法

公民館経営にみられる実際の改善事例を用いて、その経営上の課題をどのように改善し、どのような成果が得られたかについてのパターン（型）を分析する。また、改善事例収集のために東北地方（6 県）の公民館調査を行った。調査の概要は表 1 の通りである。

表 1 調査の概要

調査対象：東北各県の教育委員会が把握する公立公民館全館（悉皆調査）
調査館数：1204
調査時期：2015 年 3 月 16 日～5 月 13 日
配付方法：メール便による配付、およびウェブからのダウンロードを通じた配付
回収方法：電子メール、またはファックスによる返送
回収状況：回収数 199（有効回収数 198）、回収率 16.5%（有効回収数 16.4%）
主な調査内容：経営上の課題の有無、課題とその解決の手だて及び成果、利用状況、事業数、予算、公民館の概要 等

3 分析の結果

(1) 回答を得られた公民館と分析対象の概要

調査によって回答の得られた公民館の概要を示すと、設置者は、市立 67.7%（134 館）、町立 28.3%（56 館）、村立 4.0%（8 館）である。館の種類は、中央館 19.2%（38 館）、中央館（地区館機能併有）16.7%（33 館）、地区館 64.1%（127 館）であった。

経営上の課題、改善による成果、改善の手だてについて、本調査では、各公民館における経営上の課題、その解決に向けた手だて、及びそれによってみられる成果や変化の事例の組み合わせについて、最大 3 事例までの回答を求めた⁸⁾。本稿では、調査のこの部分の回答結果を分析対象としたため、この回答結果の状況を示しておくことにする。この回答のうち、解決の手だてによる何らかの変化や成果の事例の記述があったのは、有効回収 198 館のうち、108 館であった。また、このうち、3 事例の回答のあったのは 15 館、2 事例の回答のあったのは 22 館、1 事例のみの回答であったのは 71 館であった。これらを合計すると、160 事例の経営改善の事例を収集できたことになる。表 2 はその一例を示している。

回答のあった公民館経営上の課題は多岐にわたるが、その中でも「講座の受講者や館の利用者が高齢者に片寄っている」「利用者が固定化している」「学級・講座のマンネリ化」などは比較的多く挙げられている内容である。

(2) 経営診断におけるリンケージ構築に向けた検討

①分類項目の抽出

まず、具体的な分析の手順を述べると、調査で得られた 160 の改善事例を検討の対象として、それぞれの「経営上の課題」「改善の取組みによる変化や成果」「改善の手だて、手法」の回答からできるだけ具体のレベルで内容を抽出（項目化）した。回答内容に基づいて、1 つの事例から少なくとも 1 つの内容が項目として抽出されるが、回答内容によっては 2 つ以上の項目を取り出した場合もある。そして、それらの具体的な項目を内容の親近性からまとめ、内容的に中程度の項目化を試みた。それがこれより以下の分析結果である。

具体的にその結果をみていくことにする。表 3 は、「経営上の課題」の回答に挙げられていた内容を、これまでに示されている公民館経営診断の診断名の 4 領域に「その他」を

表2 回答のあった経営上の課題の改善事例（一部）

経営上の課題	改善の取組みによる変化や成果	改善の手だて、手法
利用者が高齢者層や主婦層にかたより、同時に、頻繁に利用される個人が特定化している。	<p>主催事業に地域の小中学生の参加を積極的に受け入れた。</p> <p>小学生の親を対象にした家庭学級の内容充実。</p> <p>地域の小中学生やその家族、知人が公民館を訪れるようになった。</p> <p>家庭学級の内容充実を口コミで知った親子が新たに学級生に加わった。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校就学児を持つ親の家庭学級の新たな展開。 2. 公民館まつりに地域の小学生・中学生が出演した。 3. 小学校の歴史授業の講師を公民館利用者が務めた。
事業を企画立案する段階で、職員の経験不足から各種情報・資料の収集がうまくできない。	<p>職員の事業に対する姿勢が積極的で前向きになってきた。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 状況の許す限り各種研修会や講習会に参加できるようにしている。 2. 市の社会教育機関に情報の提供を依頼している。 3. 毎年同じように実施している事業の見直しや方法の吟味。
事業における周知や公民館活動の認知が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種事業の参加者が増加した。 ・ 参加できなかったが次回講座の際は参加するという声も多くあり、成果はないが次回につながった。 ・ 直接依頼に伺うこと自体が公民館活動の周知にもなり、次期開催時に市民の協力を得られやすくなった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域内のお店や郵便局、銀行などの市民の利用者が多い施設に直接依頼に行きポスター等を貼った。 2. 支所だよりや市広報などに積極的に掲載を依頼した。 3. 公民館の窓口に来る市民の方に積極的に周知した。
会議や講座の参加者の減少と遅刻が、事業運営上でも問題になっていた。	<p>まずは、開始時間には絶対開会することで、遅れてくる人がなくなったほか、欠席の連絡も必ずくるようになった。遅れてきた人のための振り返りなども行わないようにして、閉会后、周知することで、欠席者が激減。</p> <p>会議や事務連絡等も連携することで、出席者の負担軽減になった。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「会議改善」という名目で、わかりやすい案内文書に変更。 2. 会議や講座の開始時間と終了時間の厳守徹底。 3. 会議や講座なども複合的に開催できるものは一緒に行うようにした。

加えた5領域に分けて示している。5領域とは、「事業のPDCA（領域Ⅰ）」「交流、地域づくり（領域Ⅱ）」「施設運営、施設・設備の管理（領域Ⅲ）」「役割意識と行動、役割理解（領域Ⅳ）」「その他（領域Ⅴ）」である。

領域Ⅰは公民館事業の全般にかかわる内容の領域で、冒頭の診断名には「111 講座参加者、利用者の固定化」が挙げられている。これにまとめられたのは、160事例のうち21事例に記載された経営上の課題である。その具体的な項目には「利用者がほとんど高齢者」「高齢者大学の高齢者の固定化」「参加者がほとんど女性」「利用者が特定の団体に限られる」などである。さらに表3では「112 講座参加者の減少、利用者の減少」が挙げられている。ここには「子育て世代の利用者、参加者数が少ない」「若年層の参加が少ない」「働いている人の講座への参加が少ない」等の回答を分類している。分類した事例数は全体で

表 3 経営診断の診断名候補の分類

No	診断名	No	診断名
領域Ⅰ 事業のPDCA		219	地域との関係づくり、地域との連携
111	講座参加者、利用者の固定化	216	地域団体役員、指導者の後継者不足
112	講座参加者の減少、利用者の減少	217	地区住民との連携協働による地域の活性化
113	参加者が継続して集まる講座と集まらない講座がある	218	地域の子どもは地域ぐるみで育成する
114	対象者、地域人口の減少	219	地域との関係づくり、地域との連携
115	別の施設に利用者が流れる	領域Ⅲ 施設運営、施設・設備の管理	
116	新規受講者が少ない	311	施設の破損、汚損、老朽化
117	自主学习サークル、団体の減少	312	職員の不足
121	事業の周知が不足	313	予算の不足
122	主催事業への参加促進	314	収納座席の故障（利用方法、注意喚起）
124	地区別で利用者に偏りがある	315	出席会議の遅刻
141	講座・教室の不足（体育以外）	316	確認ミスによる利用サークルの部屋の間違い
143	講座内容の充実	317	町単位の公民館を学習センターに統合したことによる参加の制限
144	子育て事業の推進		
145	講座が受講者主体でなく受身的（自らの学びの意識が高い）	320	利用する部屋が一部に集中
146	限られた予算の講座の中で、参加者が知識・技術を習得しにくい	321	活動場所が被災で残った分館や集会場等に限られる
147	公民館事業の活性化	322	指定管理者への移行後の事務局体制の不安
148	人的、財政的事業により単独事業（新規）の実施は困難	323	貸館基準の判断
149	苦情により放課後子ども教室の存続が問題となった	324	駐車スペースについての利用者間のトラブル
150	地域団体との共催事業の運営体制が不十分	領域Ⅳ 役割意識と行動、役割理解	
161	学習ニーズの把握が難しい	411	公民館活動が理解されていない、公民館の認知度が低い
162	職員減により講座の企画、運営が困難	412	中央公民館職員と地区コミュニティセンター（指定管理者）の職員との連携の希薄化
163	公民館事業ボランティアメンバーの高齢化		
領域Ⅱ 交流、地域づくり		413	事業は地区に残って実施しているが、事務局はセンターにあり負担が大きい
211	コミュニティ事業への参加者・団体の減少	414	地域の学習センター・コミュニティセンターとしての役割を果たす
212	震災による地域人口減少		
214	震災で海を怖がる子どもがいる	415	職員の意識の向上
215	地域内各地区住民の交流の不足	416	他施設、機関との連携強化
216	地域団体役員、指導者の後継者不足	領域Ⅴ その他	
217	地区住民との連携協働による地域の活性化	511	利用者の交通環境・移動手段が十分でない
218	地域の子どもは地域ぐるみで育成する		

最も多く、28事例であった。領域Ⅱの最初には、「211 コミュニティ事業への参加者・団体の減少」がある。領域Ⅲでは「311 施設の破損、汚損、老朽化」等の施設、設備等に関する診断名、領域Ⅳでは、公民館や公民館活動についての理解や関心、職員の意識等にかかわる診断名が挙げられている。

なお、現状では、この診断名が体系的になっているとは言えず、また、すべてを網羅できてもいない。あくまで、今回の調査結果に基づいて、領域ごとに列挙したものである。番号が飛んでいる箇所は、今後、項目の追加が考えられる個所である。

次に、「改善の取り組みによる変化や成果」についてみてみることにする。表 4 は診断名の場合と同様に、回答で挙げられた具体的内容を中程度の項目にまとめたものである。ここでの分類は次の6領域、「条件整備、環境整備（領域Ⅰ）」「役割意識、役割理解、他施

表 4 経営診断の成果名候補の分類

No	成果名	No	成果名
領域 I	条件整備、環境整備	341	職員の資質能力の向上
111	施設・設備の計画的な修繕	領域 IV	職員、協力者・支援者の関係と充足
113	室内環境の整備	411	他機関との連携協力の促進
117	駐車、駐輪の環境整備	412	協力者等との関係づくり
領域 II	役割意識、役割理解、他施設との関わり	414	地域団体の育成と活動支援
211	職員の意識、理解、利用者対応の向上	415	公民館と自治会、町内会との連携協力の促進
212	職員の公民館改善に対する理解の向上	416	住民と公民館の協議
215	住民による公民館への理解・関心の向上	421	職員間の協力と共通理解の促進
216	他施設との関係強化	領域 V	利用者間の関係、利用者、関係機関の充足
領域 III	公民館事業の実施とそれに関わる知識	521	受講者、利用者の活動の充実
311	受講者、参加者、利用者の増加	522	受講者、利用者の交流の促進
312	受講者の属性等のバランスがとれる	523	学習したことの意義、学習成果の理解
314	施設利用、受講申し込みの利便性の向上	524	講師等への感謝
317	講座運営の活性化	525	今後の学習希望、活動希望の顕在化
321	自主学习グループの組織化と活動支援	531	公民館利用の利便性の向上、公民館の理解向上
322	地域の団体、自主学习グループとの連携協力の促進	541	落とし物、忘れ物の減少
325	新規講座、多彩な内容、方法の講座の実施	領域 VI	地域における学習の向上、地域活動の向上、発展
327	公民館活動の情報提供と理解の促進	612	住民の地域への関心の向上
328	住民による企画講座の実施と促進	614	学習成果の発表、地域での活用
331	事業の円滑な運営	615	住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上
333	各種会議の的確な運営と参加	616	公民館の地域づくり支援機能の向上

設との関わり（領域 II）」「公民館事業の実施とそれに関わる知識（領域 III）」「職員、協力者・支援者の関係と充足（領域 IV）」「利用者間の関係、利用者、関係機関の充足（領域 V）」「地域における学習の向上、地域活動の向上、発展（領域 VI）」に分けられている。例えば、領域 I の最初にある「111 施設・設備の計画的な修繕」は、修繕や補修が必要な箇所に優先順位をつけるなどして補修を計画的に進めることを示している。また、領域 II では、その最初に「211 職員の意識、理解、利用者対応の向上」があり、このほか 3 項目が挙げられている。領域 III は「公民館の事業とそれにかかわる知識」についての成果名である。ここには、「311 受講者、参加者、利用者の増加」「312 受講者の属性のバランスがとれる」等の 12 項目があり、6 領域の中でその項目数は最も多くなっている。領域 IV は、職員や支援者等を中心とした成果名、領域 V は利用者に関わる成果名、領域 VI は地域や地域への広がり視点から挙げられている成果名である。

さらに、「改善の手だて、手法」の分類をみることにする。表 5 は、これまでと同様に、回答で得られた具体的な内容をもとにして、それらを近い内容ごとにまとめたものである。これは、経営診断においては「改善・整備名」となりうる内容である。ここでの領域には、「役割、知識、行動の充実・向上（領域 I）」「職員、協力者・支援者の関係促進（領域 II）」「職員組織の向上（領域 III）」「地域社会の発展、向上（領域 IV）」の 4 つがある。領域 I は、公民館事業を進める上での具体的な役割や行動にかかわる内容で、その最初に「111 講座等の内容の改善、充実」を挙げている。領域 I の項目数は、全体の半数を越えており、他の領域の項目数よりも多くなっている。領域 II では、職員や公民館支援者、施設等との関わりについての改善・整備名であり、「211 他施設・団体との連携」、「212 学校との連携」

表 5 経営診断の改善・整備名候補の分類

No	改善・整備名	No	改善・整備名
領域Ⅰ 役割、知識、行動の充実・向上		領域Ⅱ 職員、協力者・支援者の関係促進	
111	講座等の内容の改善、充実	211	他施設、団体との連携
112	講座受講対象の改善	212	学校との連携
113	講座等の開催方法等変更	213	多様な講師の選定、ボランティアの育成
114	講座等の周知内容方法の充実	214	庁内の連携
115	講座等の企画、運営方法	216	組織、団体の育成、活動支援
116	広報の充実、強化	217	公民館支援組織、団体の育成
117	利用申し込み、申請方法の利便性の向上	218	会議開催方法の見直し、改善
118	館内の歩行、移動の利便性、安全性の向上	219	事業運営体制の整備
119	施設、設備の補修、修繕、改善	220	自主学习サークルとの協力関係づくり
120	各種計画策定	領域Ⅲ 職員組織の向上	
122	施設の利用予定、利用方法、注意事項等の明示	311	職員の会議
		312	施設、設備等の使用、管理と体制整備
123	受講者への学習活動、学習希望等の調査	314	他の公民館職員との連携協力
124	利用団体の育成、活動支援	315	研修の実施、研修機会の確保
125	住民への公民館の必要性の周知	316	公民館職員としての役割、心得を意識する
126	館内にアンケートボックスを設置	317	日常業務についての情報共有
127	地域防災活動とその支援	領域Ⅳ 地域社会の発展、向上	
128	地域の自然、伝統、文化の継承、保存、活用支援	411	地域課題の検討（現状分析、課題の洗い出し）
		412	震災に関わる記録、震災からの復興への支援
129	住民の学習関心の把握	413	学習成果発表の支援
130	指導者、ボランティアの養成、活動支援	414	住民の交流拠点としての公民館のあり方の検討
131	公民館の事業、運営等に関する協議の場の設定		
130	図書利用、読書支援の充実	415	安心、安全な地域づくりへの支援

等が挙げられている。領域Ⅲは主として職員の意識や行動についての項目で、「311 職員の会議」「312 施設、設備等の使用、管理と体制整備」等がある。最後の領域Ⅳは地域社会の発展、向上に関わる内容で、「411 地域課題の検討」「414 住民の交流拠点としての公民館のあり方の検討」等の項目が見られる。

②分類項目間のリンクージ構築に向けた分析

さらに、今回の調査で得られた 160 の経営改善の事例では、これまでにみてきた「診断名」「改善・整備による成果名」「改善・整備」の分類が、どのような組合せになっているかを分析する。

リンクージとは、「診断名」「改善・整備による成果名」「改善・整備」における各分類の有効な結びつきのことなので、160 のそれぞれの事例を分類した項目間の関連はリンクージの 1 つと言える。例えば、ある事例では、診断名が「111 事業参加者、利用者の固定化」で、改善・整備による成果が「311 受講者、参加者、利用者の増加」、改善・整備が「116 広報の充実・強化」となっている。これは、事業参加者や利用者が固定化しているという経営上の問題状況（診断名 111）が、受講者、参加者、利用者の増加する形に改善が図られ（成果名 311）、その時の改善の手立てが広報を充実・強化したことであった（改善・整備名 116）、ということの意味している。この分類項目相互の連関がリンクージで、この公民館の経営上の課題とその解決の型は、「111（診断名）-311（成果名）-116（改善・整備名）」と表すことができる。

このように考えれば、今回の調査では 160 のリンクージが得られたことになるが、それ

はらはいずれも個々の事例に見られるリンケージであり、このような中から信頼度の高いリンケージを見つけ出していくことが必要となる。

そこで、ここではリンケージの構築に向けた検討として、今回の分析で得られたリンケージの型の分析を行った。具体的には、表3で示した診断名候補のうち、今回の調査で得られた事例での該当数が多い診断名を取り上げて、そこに見られるリンケージの型の特徴を分析する。

表3の診断名候補の中で、調査で得られた事例で経営上の課題が該当する数の多かった上位5項目をあげると、「112 講座参加者数の減少、利用者の減少」(28事例)、「111 講座参加者、利用者の固定化」(21事例)、「143 講座内容の充実」(13事例)、「217 地域住民との連携協働による地域の活性化」(6事例)、「212 震災による地域人口減少」(6事例)である。ここでは、講座や利用事業にかかわる「112 講座参加者数の減少、利用者の減少」と地域づくり支援にかかわる「217 地域住民との連携協働による地域の活性化」を取り上げて、そのリンケージの型を分析する。

まず、経営上の課題が「112 講座参加者数の減少、利用者の減少」にあてはまる28事例では、どのような成果名が回答されているかをみると、「311 受講者、参加者、利用者の増加」(24事例)、「522 受講者、利用者の交流の促進」(4事例)、「615 住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上」(4事例)と、このほか、表3の214、215、314、411、521、523、524、525、612、614の成果名(各1事例)であった(複数の成果を上げている事例があるので、合計が28にはならない)。これを見ると、講座参加者や利用者の減少という問題状況に対して受講者、参加者、利用者の増加を成果と捉える場合が圧倒的に多いが、受講者、利用者の交流にかかわる内容を改善の成果と捉えられることがあることがわかる。

さらに、改善・整備による成果として最も多かった「311 受講者、参加者、利用者の増加」に該当する24事例の改善・整備名をみてみたい。これらの事例の回答内容を表5の該当する改善・整備名候補で見ると、その多い順に「116 広報の充実、強化」(10事例)、「111 講座等の内容の改善、充実」(10事例)、「113 講座等の開催方法等変更」(5事例)、「114 講座等の周知内容、方法等変更」(5事例)、「112 講座受講対象の改善」(3事例)、「211 他施設、団体との連携」(3事例)、「117 利用申し込み、申請方法の利便性の向上」(2事例)、「115 講座等の企画運営方法」(2事例)、「123 受講者への学習活動の調査、学習希望等の調査」(1事例)となっている。これを見ると、受講者、参加者、利用者の増加に向けた改善・整備の方法として比較的多く行われているのが、広報の充実、強化と講座内容の改善・充実があり、次いで、講座等の開催方法の変更と周知の内容、方法の変更とすることができる。これをリンケージの様式でまとめると表6のようになる。

表6 「講座参加者数の減少、利用者の減少」のリンケージ

診断名	講座参加者数の減少、利用者の減少 (112)
改善・整備による成果	受講者、参加者の増加 (311)
改善・整備	広報の充実、強化 (116) 講座等の内容の改善、充実 (111) 講座等の開催方法等変更 (113) 講座等の周知内容、方法等変更 (114)

同様に、「217 地域住民との連携協働による地域の活性化」のリンケージの型の分析を行ってみたい。該当する 6 事例の回答状況を見ると、その改善された状況があてはまる成果名候補は、「615 住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上」（2 事例）、「616 公民館の地域づくり支援機能の向上」（2 事例）、「321 自主学习グループの組織化と活動支援」（1 事例）、「325 新規講座、多彩な内容、方法の講座の実施」（1 事例）、「416 住民と公民館の協議」（1 事例）となっている（複数の成果内容を回答している事例があるため、合計が 6 にならない）。このうち、「615 住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上」と「616 公民館の地域づくり支援機能の向上」のそれぞれの改善・整備名を見ると、前者では「411 地域課題の検討」「125 住民への公民館の必要性の周知」が 2 つの事例で共通して挙げられている。また、後者の改善・整備名は「128 地域の自然、伝統、文化の継承、保存、活用支援」「217 公民館支援組織、団体の育成」であり、こちらも該当する 2 つの事例で共通して見られる内容となっている。

これをもとにして、リンケージを示すと表 7 のようになる。これを見ると、「地域住民との連携協働による地域の活性化」という課題（診断名）に対して、住民の交流促進や公民館の交流機能の向上に特化した課題解決後の状況を設定した場合と、公民館の地域づくり支援機能の向上を課題解決後の状況として設定した場合で、効果的な改善・整備の方法に違いが出ていることがわかる。

表 7 「地域住民との連携協働による地域の活性化」のリンケージ

診断名	地域住民との連携協働による地域の活性化（217）	
改善・整備による成果	住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上（615）	公民館の地域づくり支援機能の向上（616）
改善・整備	地域課題の検討（411） 住民への公民館の必要性の周知（125）	地域の自然、伝統、文化の継承、保存、活用支援（128） 公民館支援組織、団体の育成（217）

4 考察

以上のように、個々の事例に見られるリンケージについて、リンケージの型が共通する事例が多いほど、そのリンケージの経営診断における有効性が高いと考えることができる。その点からすると、いまだ十分な事例数による検討とは言えないが、「講座参加者数の減少、利用者の減少」のリンケージ（表 6）は、講座参加者数や利用者の減少の改善の試みに対して何らかの参考となるであろうと考えられる。しかし、表 6 の改善・整備にあるように、「広報の充実・強化」「講座等の内容の改善、充実」等の具体的な内容は未検討のままであり、現在のリンケージから改善に向けた十分な情報を提供できる段階には至っていない。

また、「地域住民との連携協働による地域の活性化」のリンケージ（表 7）では、同じ診断名の下で、型が共通する 2 つのリンケージを示した。これは、同じ診断名であっても、改善後の期待する成果が異なる場合、改善・整備の方法も異なることを示している。また、このことは、経営診断においてはどのような状態への変化を目指すかが重要事項であることを意味している。

分析した事例数に関しては、それぞれのリンケージにおいて 2 事例のみで少ないが、調査回答者に意識されにくい経営上の課題（診断名）である場合、共通のリンケージの型となる事例を今回のような調査で数多く収集することは難しい。今回の事例がそれにあては

まるとは言い切れないが、少なくとも複数の事例で共通するリンケージの型を確認できたことから、今後はより多くの共通の事例を探求するとともに、そのリンケージの妥当性の検討を継続していく必要があるだろう。

最後になったが、公民館経営診断のリンケージ構築には、その枠組に基づけば、診断名、成果、改善・整備の分類項目の定義、診断指標、判定方法の確立が必要である。本稿では多数の項目を列挙したが、それぞれがどのような内容を含んでいるかは、全く検討をしてこなかった。これらの分類項目名として妥当性、さらにはリンケージそのものの妥当性を検討していくことが今後の重要な課題であると考えている。

注

- 1) 概念と概念の関係あるいは結びつきを示すもの。(マリオン・ジョンソン『看護診断・成果・介入 第2版』医学書院、2006、p.16.
- 2) 近年では、地域と学校の連携・協働の体制整備の方向として、公民館等の社会教育施設には、「世代間の絆をつなぐ協働の場」として期待されている。(中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」、2015年12月)。
- 3) 原義彦「公民館機能の有効性と診断についての予備的考察」『日本生涯教育学会論集』31、2011、53-62頁
- 4) 同「公民館の経営診断についての検討-診断、成果、改善・整備の連関に着目して-」『日本生涯教育学会論集』32、2012、pp.43-52。
- 5) 同『生涯学習社会と公民館 経営診断による公民館のエンパワーメント』、日本評論社、2015、pp.256-274。
- 6) NANDA インターナショナル編(日本看護診断学会監訳)『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2009-2011』(医学書院、2009)、p.491では、「看護診断とは実在または潜在する健康問題／生活過程に対する個人・家族・地域社会の反応についての臨床判断である。看護診断は、看護師に責務のある目標を達成するための決定的な治療の根拠を提供する。」とされる。分類の理論に基づく看護診断では、診断名の体系化されており、NANDA インターナショナルが設定している診断名もその1つである。また、その診断名とそれが改善、回復した状態を示す看護成果分類(NOC)、並びに看護成果が期待できる看護介入分類(NIC)のリンケージが構築されている。
- 7) リンケージの構築には、実践における経営課題と改善について異なる方法による段階的な調査が必要である。本論では、経営上の課題と改善について質問紙を通じた自由記述により行った。これは多種多様な課題と改善事例を数多く収集することが目的である。しかし、実践においては意識されにくい経営課題や改善があり、自由記述による方法では事例収集が困難である。そのため、意識されにくい課題や必要課題(例えば、ビジョンや経営目標の達成状況など)に基づく診断名を設定(仮設)し、その改善の手法と成果の調査が必要である。診断名を仮設する方法は、前掲、原(2011)で示されており、今後はこのような調査を質問紙、聞き取りを通じて行うことを考えている。
- 8) 回答者は公民館職員、あるいは教育委員会事務局職員で、回答いただいた内容は、課題、改善の取り組みによる変化や成果、改善の手だての組み合わせの事例である。調査では、経営診断の事例として回答を求めているわけではない。

*本稿は、JSPS 科研費 JP25381064 の助成を受けて行った研究成果の一部である。

平成 25-28 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C)

課題番号：25381064 研究代表者：原 義彦

研究課題：生涯学習施設の経営診断・評価技法の標準モデルの開発
—公民館経営診断を中心に—

公民館経営診断技法のリンケージ開発に関する研究報告
～公民館の経営改善事例の調査を通じて～

発行 2017(平成 29)年 3 月 17 日

著者 原 義彦

〒010-8502 秋田市手形学園町 1 番 1 号

秋田大学教育文化学部

印刷所 有限会社 三浦印刷